# LION 電子版

ライオン誌日本語版では、2009年7月号から電子版の配信を開始。2016年からは、日本語版が創刊された1958年以降の全てのライオン誌を、電子版アーカイブとして公開しています。併せて全バックナンバーの記事を検索出来るシステムを開発し、ライオン誌ウェブマガジン上でご覧頂けるようになっています。ぜひご活用ください。

■ライオン誌日本語版最新号

ライオン誌日本語版の最新号は、ライオン誌ウェブマガジンのトップページにある表紙写真をクリックすると、雑誌形式の電子版が開きます。

http://www.thelion-mag.jp

■ライオン誌日本語版バックナンバー

1958年の創刊以来、全てのライオン誌日本語版が電子版でご覧頂けます。ウェブマガジン・トップページ左にある「アーカイブ」メニューからお入りください。最初のページでは、記事の検索も出来るようになっています。

●アーカイブ（創刊以来のバックナンバーの全記事検索）
http://www.thelion-mag.jp/emag.php

---

ライオン誌ウェブマガジンからはこの他、ライオン誌へのアクティビティ投稿や、ライオン誌読者プレゼントの応募、ライオン誌出版物の注文が、オンラインで出来るようになっています。

●アクティビティ投稿
http://www.thelion-mag.jp/report/activity/index.htm

●読者プレゼント応募
http://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0\

●ライオン誌出版物の注文
http://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2

---

電子版は専用アプリを使用することで、スマートフォンやタブレットからはオフラインでも閲読出来ます。電子版専用アプリは、ダイレクトクラウド社が無料で提供しているカタログビューア「Wisebook CloudViewer」で、iPhoneやiPadなどのiOSはApp Storeから、Android系スマートフォンやタブレット用はGoogle Playから無料でダウンロード出来ます。

■Wisebook CloudViewer（Android版）
Android版のGoogle Playダウンロード・ページ
play.google.com/store/apps/details?id=jp.wisebook.cloudviewer

■Wisebook CloudViewer（iOS 版）
iOS版のApp Storeダウンロード・ページ
itunes.apple.com/jp/app/wisebook-cloudviewer/id980521598

---

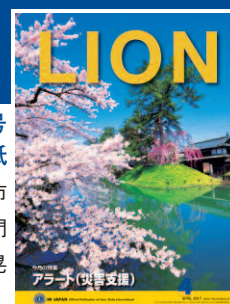
●国際協会ライオン誌日本語版デジタル（試験運用中）：http://mydigimag.rrd.com/publication?i=385366

---

●ライオン誌 Facebook：https://www.facebook.com/LION.MAG.JP
●ライオン誌 Twitter：https://twitter.com/LionJP
●ライオン誌 Instagram：https://www.instagram.com/lionmagjp/

LION MAGAZINE IN JAPAN
April 2017, Vol.59 No.10

We Serve CONTENTS

■2017年4月号
表紙
青森県弘前市
弘前城追手門
写真／鈴木秀晃


4　国際会長メッセージ ●「LCIFを通して奉仕の新たな高みへ」

5　The Power of Service ～奉仕の力 ❼ ● 国境を超えた医療奉仕

6　SCENE ● 新潟県新津／和歌山県那賀

10　CLUB REPORT
10：福島県白河、白河小峰、白河高原、東／12：香川県善通寺／14：岡山県玉野渋川／14：和歌山県御坊／15：岡山ハーモニー／15：兵庫県宍粟なでしこ／16：岐阜県大垣城／16：大分県佐伯／17：神奈川県横浜おおとり／17：福井イースト／18：ウェストバージニア州モーガンタウン／19：エストニア／19：イスラエル

20　特集 ● アラート(災害支援)
災害が多発する日本で、ライオンズはどういう支援活動が出来るのか？　3年前、本誌が同じテーマで特集を組んだ際、阪神・淡路大震災と東日本大震災の経験者が出した答え「後方支援」をキーワードに、現実的なアラート活動を考える。
21：災害支援活動への道は日頃からの地域貢献／23：ボランティアセンターの開設から運営の実際／26：行政や社会福祉協議会との連携が鍵

30　国際理事だより ●「台南フォーラム・ステアリング委員会報告」佐藤宜之

31　LIONS NEWS CASSETTE
31：次年度地区ガバナー就任に向けたGMT・GLTエリア研修／31：地区を超えた交流の場となった335複合地区次世代リーダーフォーラム／32：国際大会へ派遣するクラブ代議員の任命／32：シカゴ国際大会会期中のガイド付き本部ツアー／33：シカゴ国際大会代議員資格証明用紙／35：ライオンズクラブ100周年記念コイン発売中／36：Touchstone Stories 試金石ストーリー 14 視力ファースト・キャンペーン

37　LCIF FILE

38　東日本大震災復興だより ● 千葉県飯岡
3.11リレー連載㉕：守部幸一

40　獅子吼
40：橘勝也／41：見谷玲子／42：原周二／44：成田行祥

46　ライオンズを探せ ● 埼玉県草加

48　表紙の背景 ● 青森県弘前市

49　ふるさと探訪 ● 福岡県八女市

54　READERS ROOM
54：読者から／読者プレゼント
55：もう一度読みたい「あの記事」●「ライオンズと科学」

56　EDITORS ROOM
56：ライオン誌例会のススメ／次号予告
57：編集室 ●「糖尿病は万病の元」渡邉信也

58　日本ライオンズクラブ　分布図


本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

# A Message From Our President

Chancellor
Bob Corlew
Lions Clubs International
President

## LCIFを通して奉仕の新たな高みへ

1978年にライオンズクラブに入会した私は、すぐにその仲間意識が大好きになりました。しかし、私が今もライオンであり続けている理由は、クラブが地域社会に提供している奉仕にあります。私たちは電球、ほうき、モップを販売し、売上は全て多くの貧しい人々のために役立てています。その他にも、視力検査を実施して青少年の視力を守り、感謝祭には食料を詰めたバスケットを配り、孤児や恵まれない子どもたちのためにアクティビティを行うなど、クラブは驚くほど多くの善行を成し遂げてきました。

そして私がライオンズについて知るにつれ、更なる事実が明らかになってきました。クラブが単独で行っていたことは、複合地区としての成果には遠く及ばないものだったのです。中でもテネシー・ライオンズ・アイ・センターは、国内有数の眼科病院として何千人もの子どもたちの生活に劇的なインパクトを与えています。

地区ガバナーになり、また国際理事に就任してからはいよいよ深く、私の知見は広がることになりました。ライオンズ・メンバーがそれぞれの時間、才能、財産を出し合って共に行動する時、計り知れないメリットと成果が得られます。ライオンズの心臓はクラブであると、会員であれば誰もが知っています。しかし、ライオンズがより大きな規模で力を合わせた時、私たちは目を見張るような偉業を達成することが出来るのです。

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)がこれほどまでに大きな力を発揮している理由も、まさしくそこにあります。地域社会と国際社会に尽くす私たちの財団は、ライオン一人ひとりの心に深く根差した奉仕への熱意を生かす手段です。『ライオン誌』本部版では4月号（日本語版では5月号）に、LCIFの2015年度年次報告としてその成果をまとめて紹介します。皆さんにはこれを読んで誇りを感じると共に、引き続きメルビン・ジョーンズ・フェロー(MJF)や献金会員プログラムを通してLCIFをご支援くださるようお願い致します。はしかイニシアチブには特に支援が必要です。皆さんの献金が多くの命を救うことにつながります。

それぞれの地域社会に奉仕するためには、確かに時間と配慮が必要です。しかしそれだけでなく、LCIFを通じて仲間と結束し、世界を変えて頂きたいのです。 LCIFが人々を支援する手助けをしてください。私たちはLCIFを通して新たな高みへと到達し、次なる山を目指すことが出来るでしょう。

2016-17年度国際会長
ボブ・コーリュー

※「国際会長メッセージ」の原文は国際協会公式サイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/who-we-are/our-leaders/presidents-message.php

7

## 国境を超えた医療奉仕

1977年から続く334・E地区（長野県）のフィリピン医療奉仕の発端は、地域の小学生や婦人会の協力で集めた文房具などをフィリピンへ届けた飯田ライオンズクラブの活動だった。県下のクラブに医師のメンバーが多かったこともあり、現地の実情を伝えた飯田ライオンズクラブの報告が、地区を挙げたフィリピンへの医療奉仕団派遣の構想へ発展した。

フィリピンでは第二次世界大戦中、日本軍の占領下で多くの人が犠牲になった。その恩讐を超えて、フィリピン・マニラ ライオンズクラブが東京ライオンズクラブ結成のスポンサーとなり、日本のライオンズにとってはいわば生みの親でもある。戦後の日本が目覚ましい復興を遂げた一方、フィリピンでは多くの人々が貧困にあえぎ、医療を受けられずに苦しんでいた。

フィリピンの人々のためにと始まった医療奉仕だが、当初はまだ反日感情が根強く、思うように人が集まらなかった。それが2回、3回と回を重ねるうち次第に信頼が芽生え、第5回目には会員医師や看護師ら総勢130人が4日間で延べ3107人もの診療を実施。参加した会員医師の一人は「飢餓に苦しみ、栄養失調で骨と皮ばかりの人たち。結核、貧血、梅毒、緑内障、白内障……順番を待つ患者の気持ちを考えてみんなでがんばった」と振り返った。

フィリピン医療奉仕は支援物資の収集やボランティアの参加に市民を巻き込みつつ、LCIF交付金を活用したフィリピン・ライオンズとの合同事業として、国際的にも高い評価を受けている。

今年で42回目となった日本・フィリピン合同医療奉仕は2月10日～13日に実施された。334-E地区のメンバーやボランティアら173人が参加して2日間に4カ所で内科、歯科、眼科の診療を行い、受診者は合わせて8,236人に上った

SCENE

新潟県・新津ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　写真／長谷川直紀

# みんなで健康になれば、国家の課題も解決出来る⁉

厚生労働省によると、2015年度の国内医療費が41・5兆円となり、13年連続で過去最高を更新した。社会保障制度を根本から揺るがしかねないこの深刻な問題に、正面から向き合ったのが新津ライオンズクラブ（石川幸夫会長／25人）だ。

「一人ひとりが良い生活習慣を心掛け、病気になりにくい身体を作れば、平均寿命も長くなり、国家の医療費や介護保険も少なくなるはず」（石川会長）

クラブでは今年度、国際協会100周年記念事業でカンボジアに学校校舎を寄贈したが、その活動と両輪を成す事業として「お金の掛からない健康寿命大学」を企画。新潟市の後援を取り付け、市民を対象に1月から6月まで月に1度、2時間の無料セミナーを開催している。

「お金が掛からない」「家の中で誰もが出来る」のがポイントで、専門講師や医師の協力の下、睡眠、食事、運動、ストレス除去の4項目を取り上げた。実践と理論は講義で、その後生活に取り入れ、セルフチェックを行うことで無理なく身に付くよう工夫されている。

第1回は、スローステップで階段を上り下りする運動に挑戦。2回目は、タオルを握って緩める動作を繰り返すタオルグリップの運動。血管を若返らせる効果があるという。また、脳活成分として注目されているアホエンオイルの作り方も披露された。

質疑応答では熱心な質問が多数寄せられるなど、意識の高い受講者が多く、クラブでは今後、この活動を更に拡大していくことを検討している。

**SCENE**

和歌山県・那賀ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／関根則夫

# 60人の子どもたちが元タカラジェンヌと共に舞台に立つ

2月5日、粉河ふるさとセンターの大ホールに子どもたちの澄んだ歌声が響き渡った。サン＝テグジュペリの名作『星の王子さま』を原案としたミュージカル「ぼくと王子さま」の一場面だ。このミュージカルは那賀ライオンズクラブ（山田正彦会長／38人）が主催する、宝塚レビュー・チャリティショーで上演された。天翔（あまと）りいらさんを含めた元タカラジェンヌが脇を固めるも、メインはオーディションで選ばれた子どもたちだ。

那賀ライオンズクラブでは以前から薬物乱用防止教室に力を入れてきた。そんな中、新たに青少年健全育成事業を実施出来ないかと準備理事会で話が上がり、今回の公演開催につながった。

残念ながら、演劇など生の舞台芸術は地方ではなかなか上演されない。そこでクラブでは一流の舞台芸術に触れる機会として今回の事業を企画した。また、プロの面々と触れ合う体験も出来るよう、ワークショップ（体験稽古）を実施。オーディションでは県内外から多くの応募があり、定員を3倍の60人に増やすほどの盛況ぶりだった。当日はこの「ぼくと王子さま」に加え、元タカラジェンヌによるレビューショー、ダンスカンパニーの公演など盛りだくさん。極上のパフォーマンス、子どもたちの熱演によって、満席となった観客席は感動の渦に巻き込まれた。学校法人りら創造芸術高等学校の協力とメンバーの奮闘により、客席誘導を含めたスタッフワークも完璧。訪れた約1700人に一流のショーを届ける熱い一日となった。

CLUB REPORT クラブ・リポート

332-D地区

福島県・白河、白河小峰、白河高原、東ライオンズクラブ

## 国内最大級のだるま市に 4クラブ合同のライオンズ広場

奥州三関の一つ「白河の関」が置かれ、古くからみちのくの玄関口として知られる白河。そんな白河市に春の訪れを告げる白河だるま市が、2月11日、市中心部の目抜き通りで開かれた。白河だるまは、眉やひげなどを「鶴亀」「松竹梅」に見立てて描いており、「白河鶴亀松竹梅だるま」とも呼ばれる。江戸時代から続く伝統の白河だるま市には、毎年15万人もの人出があり、だるま市としては国内最大級。今年は晴天にも恵まれ、例年を上回る来場者でにぎわった。

白河ライオンズクラブ

だるま市会場近くには「ライオンズ広場」として、白河(諏江俊一会長/38人)、白河小峰(大高一二会長/43人)、白河高原(蛭田大輔会長/7人)、東(高橋一馬会長/8人)の4クラブによるブースや、ご当地ヒーロー「ダルライザー」との写真コーナーが設けられた。20年ほど前から合同で取り組んでいる継続事業で、白河ライオンズクラブはバザーと無料ライブ(今年は元宝塚男役の真灯(まとう)かなたさん)、白河小峰ライオンズクラブはつきたて餅、白河高原ライオンズクラブはとん汁と、それぞれのクラブが独自の企画で出店している。

前日から会員宅で仕込みをして臨んだ白河高原ライオンズクラブは、午前9時のだるま市開会前から販売開始。朝の冷えた空気の中、体の芯から温まろうと、

白河高原ライオンズクラブ

●投稿要領：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

※写真に100周年ロゴが付いた活動は100周年記念奉仕事業として国際協会に報告された事業

白河小峰ライオンズクラブ

同クラブのテントにはとん汁を求める人が次々と訪れた。

続いて始まったのが、白河ライオンズクラブのバザー。開始前から多くの人がバザー会場を取り囲み、10時のオープンと同時に文字通り飛ぶように品物が売れていく。白河市民やだるま市の常連にはお馴染みのバザーらしく、何と10分で完売。兵どもが夢の跡状態となってしまった。

そしてバザーの喧噪が静まった頃、白河小峰ライオンズクラブの餅がつき上がり、あんこ、きなこ、ごま、納豆の4種類の餅がブースに並んだ。一部会員は4時起き、7時には全メンバー集合で餅づくりを始めたが、こちらも常連が多いようで、裏方は終始てんてこ舞いの作業が続いていた。

結果、この日の売り上げは、白河と白河高原両クラブがそれぞれ約10万円、白河小峰ライオンズクラブが約30万円。益金は毎年、4クラブ合同のアクティビティに活用しており、今年は隣接する棚倉町在住で、難病の拡張型心筋症と診断された女児を支援する「ゆきちゃんを救う会」への寄付などを実施した。

（取材／鈴木秀晃）

336-A地区

香川県・善通寺ライオンズクラブ

# 子どもたちに雪遊びの体験を市民ふれあいフェスティバル開催

香川県の北西部に位置する善通寺市ではほとんど雪が降らない。そんな地域に住む子どもたちが年に一度、雪遊びをする機会がある。それが、善通寺ライオンズクラブ（西川清会長／42人）が毎年開催している市民ふれあいフェスティバルでのことだ。

今年は2月19日に実施した。

このイベントに際し、クラブでは県外から雪を輸送し、雪の滑り台を作っている。会場は善通寺市民会館とその前のイベント広場。雪の滑り台には子どもたちの行列が絶えない。クラブでは他にもバザーや、うどん、たこ焼きなどの模擬店を出店している。市民会館ホールでは名作映画上映会も入場無料で実施。今年は吉永小百合さんが主演した「伊豆の踊り子」など4本を上映した。1日だけの開催だが、約2千人が訪れる一大イベントだ。国際平和ポスター・コンテストの展示や、献血なども行い、ライオンズの活動を広くアピールしている。

当初、このイベントはカラオケ大会だった。人を集めて献血や事業資金獲得をするのが目的である。雪の滑り台を作り始めたのは2000年頃のこと。当初は長野から雪を持ってきたため、費用も労力もかかったという。しかし、実施したところ、子どもたちの反応が上々。その後は雪を岡山県など中国地方から持ってくるなど効率化して毎年実施している。

バザーや模擬店のためのテントや椅子の準備、滑り台のための鉄骨組みなど、メンバーの担う役割は多岐にわたる。準備が滞らないよう、それぞれのブースでリーダーを決めて進めている。近年はメンバーの高齢化も

中学生がボランティアで運営に協力してくれている

進んでいるため、簡単な作業ではない。そこで10年ほど前から市内の善通寺東中学校、善通寺西中学校のボランティア部と、推薦などで進路が既に決まっている中学生に協力をしてもらっている。こうした活動に参加することで、奉仕の大切さを若くして学んでほしいという気持ちと、地域に貢献する大人になってほしいという思いがある。また、商工会議所青年部の協力も大きな力になっている。

　クラブではけがや事故がないように気を配っている。雪の滑り台で遊ぶ子どもたちの安全はもちろんのこと、手伝ってくれている中学生たちにも何かがあってはいけない。瞬間乾燥のハンドソープを置き、来場者に殺菌してもらうなど、衛生面でも気を使う。

献血や平和記念ポスターコンテスト展示も実施

　子どもたちが楽しみにしているこの事業。今後も継続していきたいが、クラブだけで実施していくのには限界がある。クラブの事業ではなく、市の行事として、いろいろな団体と協力していければ、と考えている。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

336-B地区

### 岡山県・玉野渋川ライオンズクラブ

## 活力ある玉野市を作ろう 小学生ドッジボール大会

1月28日、玉野渋川ライオンズクラブ（小野晃広会長／38人）はレクレセンター・アリーナにて玉野市小学生ドッジボール大会を開催した。

今回で26回目を迎えるこの事業。第1回は1992年2月15日に「元気な子どもを育て、活力ある玉野市を作ろう」という指針の下、開催された。当時、メンバーから「これからの日本は青少年の育成が国の基礎であり、元気な子どもを育てるのはスポーツだ」との統一見解が生まれたことで実施が決まった。

「冬の一番寒い時期のスポーツ」としてどんな種目を選ぶのか、メンバーからはさまざまな提案があったが、室内で思い切り体を動かし、心身を鍛え、チームワークを作るのは「ドッジボール」が一番ふさわしいのではないか、と決まった。そこで早速、市内の小学校を手分けして回って先生、PTAの方々に相談し協力を頂いて無事開催となった。

過去には大雪による道路の通行止めや、車の渋滞で大会中止の年もあったが、PRに努めたことで、参加する児童、応援に来てくれる人も年々増え、回を重ねるごとに盛会となっている。

今年は市内14の小学校が参加し、男子20チーム、女子16チームから、432人の選手が出場した。試合は館内の3コートを使用。選手たちの大きな掛け声、走り回る音、声援や歓声で大盛会となった。先生方やPTAとの打ち合わせや、審判、ボーイスカウトなどの方々の協力が必須である。多くの方の努力が実り、今回も無事に終えることが出来た。

（PR会報委員長／香本富章）

335-B地区

### 和歌山県・御坊ライオンズクラブ

## 準備から当日の進行まで 手づくりの子ども暗唱大会実施

2月5日、「美しい日本語の再発見」をテーマに、御坊ライオンズクラブ（瀧頭清治会長／47人）はメイン事業として日高地方子ども暗唱大会を開催した。今年で6年目の開催となる。

「伝えたい言葉を情熱的に真摯に発表し、他者に伝え、広げ、つながることによって、人と響きあう喜びや温かさに触れていくことはかけがえのない体験となる。次代を担う豊かな人間性を育んでいく一助となればと」これは、開催当初から掲げている開催趣旨だ。参加対象は小学生と中学生。それぞれ、1人で発表する個人の部と、2人以上のグループで発表する群読の部がある。今年は個人の部に28人、群読の部に23組、総勢155人の参加があった。

クラブでは新年度のスタートと同時に、教育関係各方面及び地元新聞社等に協力や後援のお願いをする。メンバーも総出で一致団結。一校一校に足を運び、参加を呼び掛ける。地元新聞社2社が記事に取り上げてくれるので、年々地域の中での認知度も上がり、根付いてきたと感じる。審査員の先生だけは専門の方をお呼びしているが、準備から当日の進行まで、本当に手作りの事業だ。大変な労力だが、長年青少年の育成に力を注いできた経緯もあり、子どもたちのためにという思いがクラブに強くあるのを感じる。それに応えてくれるかのように、舞台で何の助けも借りず、自分の力で堂々と発表する子どもたちの姿は本当に立派で、聞く人の胸を打つ。そしてその姿を見ると今までの苦労が吹き飛ぶのだ。

（教育奉仕委員長／土屋保雄）

336-B地区

**岡山ハーモニー ライオンズクラブ**

## ふるさと納税を被災地に。お礼品で子どもの貧困支援

岡山ハーモニー ライオンズクラブ（38人）は女性を中心として活動をしている。

2016年10月21日、336・B地区内で最大震度6弱の鳥取中部地震が起きた。何か役立てることはないかとクラブで意見を出し合った。そんな中、会員の中から被災地にふるさと納税をすることで災害支援が出来るのではないかという声が上がった。早速、被災地の中でも農業被害が大きかった湯梨浜役場に連絡させて頂き、会員全員一致でふるさと納税をすることとなった。

ふるさと納税を行うと、湯梨浜町の特産が頂けるということを、送付されたパンフレットで知った私たちは、それを何か役立てられないかと考えた。

昨年からメディアなどで「子どもの貧困」に関するさまざまな問題についての記事等を目にしてきたが、地方都市である岡山ではあまりピンとこないことだった。だが、ふるさと納税の返礼で頂ける特産品が、貧困に苦しむ子どもの支援に役立てられるのではないかと考えた。

湯梨浜町はコシヒカリの米どころとしても有名であるため、全員で湯梨浜米を選択。560キロが届いた。その米をフードバンク岡山（糸山智栄理事長）を通して「順正デリシャスフード キッズクラブ」事業を展開する順正学園に贈呈することに決めた。この事業は15年11月に始まり、県内4市（岡山・総社・高梁・倉敷）の中で困窮しているひとり親家庭183軒（現在）に月に2回食料品を送るという活動である。当クラブも女性の視点でお役に立てればと考えている。

（会長／内田正子）

335-D地区

**兵庫県・宍粟なでしこライオンズクラブ**

## 会員増強を目指し、次々と奉仕活動を展開

2016年6月19日にチャーター伝達式を終えた、宍粟（しそう）なでしこライオンズクラブ（21人）は、女性クラブであり、女性ならではのきめ細やかな奉仕活動に取り組んでいる。

最初の奉仕活動は、市役所玄関前に見事に開花したナデシコの鉢植えを寄贈。発足会員数の20株を並べて、来庁者に宍粟なでしこライオンズクラブの誕生を強力にアピールした。

12月にはカラー・コンサルタントの講師を招いて「心を元気にするカラーセラピー」を開催した。会員18人と一般の聴講者17人（主に女性）が、色使いによる人間の心理やリラクゼーション等、カラーセラピーについて熱心に勉強する姿が印象的だった。

この講習会に参加して頂いた非会員の皆さんにライオンズクラブの存在をアピールし、入会の動機付けが出来ればありがたいと川本こず江会長は熱く述べていた。

当クラブは兵庫県北西部の山間にある難読地名「西の横綱」として有名になった宍粟市に誕生した女性クラブだ。リーズナブルな入会金と会費で運営することを目指しているため、例会はクラブ・メンバーの会社の休憩室をお借りして実施。また、事務局は親クラブである山崎ライオンズクラブに置かせてもらっている。時折、メンバーが経営するケーキ喫茶店や和食の店で和気あいあいと例会も開かれている。例会では主に次に行う奉仕活動について意見が交わされ、出席者が全員意見を述べるよう配慮して運営している。

（地区PR情報委員／猪狩光信）

334-B地区

**岐阜県・大垣城ライオンズクラブ**

## 市民の憩いの場である大垣公園にベンチを寄贈

2月9日、大垣城ライオンズクラブ（45人）は、ライオンズクラブ国際協会創設100周年レガシー・プロジェクトの一環として、大垣市郭町の大垣公園にベンチ2基を寄贈し、除幕式を行った。

大垣公園は、大垣城の本丸を中心とした、市内で一番古い都市公園だ。圏内でも最古の都市公園だと言われている。一年中緑の芝生の広場は多くのイベントで利用される他、休息、ジョギング、小さな子どもの憩いの場となっている。また園内には30種類200本の桜があり、春には花見客でにぎわう。遊戯広場には市内で一番大きい複合遊具が設置され、近くのトイレはバリアフリー対応など、お年寄りから親子連れまでが楽しめる公園だ。

除幕式はみぞれが降る中、午前10時から実施。鈴村広敏幹事の司会で、大倉泰宏会長から小川敏大垣市長へ目録が手渡された。

当クラブでは、これまでにも時計台、ベンチ等を寄贈しており、今回寄贈したベンチには100周年を記念した特別プレートを作成して貼ってある。

大倉会長は「自分たちが子どもだった頃からあり、今は孫を連れてくるようになった大垣公園にベンチを寄贈出来たことは大変喜ばしいことであり、孫の世代までも公園が思い出の場所であり続けてほしい」とあいさつ。一方、小川市長からは感謝状と共に「多くの方に公園へ来てもらい、皆さんにベンチを活用してほしい」とお礼の言葉が述べられた。

（副幹事／小島裕季子）

337-B地区

**大分県・佐伯ライオンズクラブ**

## 第8回英語弁論大会を佐伯・津久見2クラブ合同で開催

11月13日、佐伯市三余館で第8回ライオンズクラブ英語弁論大会 佐伯・津久見大会を開催した。佐伯ライオンズクラブ（黒澤寛会長／19人）50周年記念事業として始めた大会だが、第6回からは津久見ライオンズクラブと共催。大会はYCEプログラム派遣生の選考会を兼ねており、最優秀者は翌年の海外ホームステイの権利を得ることが出来る。

当日は、書類選考に合格した佐伯、津久見両市内の中学3年生から高校2年生までの8人が出場。将来の夢など自分の思いを英語でスピーチした。回を重ねるごとにレベルが高くなっているが、審査員は順位を決めるのに苦心するほど例年以上の激戦となった今回、見事最優秀賞の栄冠を手にしたのは佐伯鶴城高校1年生の松岡うららさんだ。

松岡さんは「海外へ行き、視野を広げよう！（英題：Go overseas and broaden your horizons!）」と題した弁論を展開。松岡さんは日本に留学中の学生との交流の中で考え方の違いを知り、留学を希望。しかし、語学研修で行ったイギリスで想像と違う体験をして自分が偏見を持っていたことに気付き、違う視点でものを見ることの大切さを知った、という内容で、身振り手振りを交えたすばらしいスピーチであった。松岡さんの将来の夢は高校の教師。この結果を受け、夏休みに教育先進国であるスウェーデンに派遣される予定である。

地域に定着してきたこの英語弁論大会。将来的には範囲を広げ、大分県全体の大会にしたいと思う。（地区副GLTコーディネーター／工藤隆宏）

330-B地区

### 神奈川県・横浜おおとりライオンズクラブ

## 土砂災害の被災地、大島で椿まつりパレードに参加

1月29日、東京都大島町にて、横浜おおとりライオンズクラブ（21人）、横浜コスモポリタンライオンズクラブ、山形紅花ライオンズクラブ、新潟県・加茂ライオンズクラブと地元の伊豆大島ライオンズクラブは合同で第62回伊豆大島椿まつりパレードに参加した。このパレードは3月26日まで続く、伊豆大島椿まつりのオープニングを飾るイベントで、小池百合子東京都知事（東京ウィル ライオンズクラブ所属）も参加している。

パレードは御神輿の練り歩きから始まり、地元の子どもたちが作る各団体のダンス、各種イベントも催された。本州より一足早く、大島町島内に強く咲き誇る椿の下で、あの甚大な被害を及ぼした土砂災害から、島民の方々が一致団結して立ち直ったことを強く感じさせられた。

大島町役場からの沿道には多くの人々が集まっており、我ら5クラブは、大島町の復興と発展を祈願して、合同で地元住民にお祝いのお菓子を贈った。

横浜おおとりライオンズクラブと横浜コスモポリタンライオンズクラブは、伊豆大島ライオンズクラブと協力して、土砂災害に見舞われた地域でアジサイの苗木100本の植樹を行っている。今回、パレードに参加することになったのはその活動の一環として招致されたものである。

第62回椿まつりパレードは関係行政、地元商工会、各関係市町村の後援も得られ、活況の中で無事に終えることが出来た。このまつりに集う人々の「絆」を感じることで、伊豆大島の方々と享受する温かみと美しさを実感出来る、すてきなイベントだった。（会長／西谷正人）

334-D地区

### 福井イースト ライオンズクラブ

## ５周年記念事業でカンボジアの小学校の図書室とトイレ改装

1月20日、福井イーストライオンズクラブ（杉本光志朗会長／115人）はカンボジアのプノンペンにてシェムリアップ・プライマリー小学校、コゥ・トロッ・ムンスター小学校という2校の、図書室とトイレの改装事業の落成式を開催した。これは、当クラブの5周年記念事業である。このカンボジアの小学校教育支援事業は、LCIF国際援助交付金を活用し、ライオンズクラブ国際協会100周年レガシー・プロジェクトの一環として実施した。

クラブでは1年半にわたって何度かカンボジアに出向き、教育の現状などを実際目で見て体験した。その結果、この二つの小学校の図書室・本棚、トイレの改装事業を決意し、今回の事業に至ったのである。

準備作業として、100周年レガシーの看板を計4カ所にわたり、現地職人と取り付け、落成式に心を高ぶらせた。

落成式は天候にも恵まれ、午前9時から各校庭で行われた。多数の子どもたちを始めとした参加者が見守る中、杉本会長から各校長に目録が手渡された。また、カンボジア日本大使館やJICAの方々、334・D地区の来賓の方々などによるテープカットが行われ、笑顔と拍手があふれる喜びの式となった。

カンボジアで現地の雰囲気を肌で感じながらすばらしい5周年記念事業が出来たことに感謝している。当クラブではこの取り組みをきっかけに、これからも「We Serve」の精神で、カンボジア支援に貢献していきたいと思っている。

（PR委員長／最里雄司）

LIONS ON LOCATION

アメリカ／ウェストバージニア州モーガンタウン ライオンズ(クラブ)

# スキーに挑戦！

スキーのインストラクターと子どもが横に並び、1メートルほどのポールを一緒に握っている。視覚障害のある子がスキーを教わっているのだ。ウェストバージニア州のライオンズが開催している、視聴覚障害児を対象としたこのスキー教室には、全米各地から子どもたちがやってくる。

「スキーによって彼らは、適応力や移動能力を養うことが出来ます」

と、モーガンタウン ライオンズ(クラブ)の(ライオン)クリスティン・ルイスは言う。

スキー教室の開催地ティンバーライン・リゾートでは、まずゲレンデに行く前にちょっとした丘で練習をする。わずかに視力のある子の中には、その日のうちに一人で滑れるようになる子もいる。

　視覚障害のある子どもたちはこれまで、日々の生活の中でいつも、「気を付けて」「ゆっくりね」「けがするわよ」と言われて続けてきた。でもゲレンデでは、慎重になってしまうのは初めのうちだけ。すぐに大きな歓声や笑い声が上がり、初めてのスポーツを体得しようとするプライドや、チャレンジ精神が湧きあがってくる。

　ウェストバージニア視聴覚特別支援学校の教師でもある(ライオン)ドナ・ブラウンは言う。彼女自身も視覚障害者だ。

「転ばずにいられるようになったら、達成感を味わえるでしょう。補助のポールに頼らずに一人で滑れるようになったら、もう他の人たちと全く同じようにスキーを習得したということです」

　ウェストバージニアのライオンズは40年間にわたり、視聴覚及び言語障害者のスキー教室を主催してきた。時には天候に恵まれなかったり、気温が0度をはるかに下回ることもある。だが子どもたちがスキーをあきらめられるはずがない。

「じゃあクロスカントリーをしましょうよ」

と(ライオン)ブラウン。

「楽しいわよ！」

LIONS ON LOCATION

## エストニア

# 「ライオン」のホームにベンチを寄贈

バルト三国の一つで、元大関・把瑠都（ばると）の出身国エストニア。1991年にソビエト連邦から独立を果たした同国には現在、60余クラブ、千数百人のライオンズが活躍している。

その日、ライオンズクラブ創設100周年の記念事業を行うためにライオンたちが向かった先は、動物園だった。

エストニアの首都タリンには、中世の城壁と石造りの住居が残る旧市街があり、世界遺産に登録されている。そしてこの街には、国内唯一の動物園ながら北欧最多の飼育動物数を誇るタリン動物園がある。敷地面積87ヘクタールは、日本の上野動物園や旭山動物園の約6倍もの広さだ。ライオンズ誕生から1世紀という記念すべき年に、レガシーを残すのにこの場こそがふさわしいと、ライオンたちは考えたのだった。

12クラブから集まったライオンたちは、いすと机がセットになったピクニックベンチ8台を完成させた。出来上がったベンチには一台ずつ、ライオンズ・マークとクラブ名を刻んだ。奉仕活動を終わらせると、今度は自分たちのためにストーブの上でパンケーキを焼いてすきっ腹を満たし、この日1日、満ち足りた時間を楽しんだのだった。

タリン動物園の人気者と言えば、標高2千メートル以上の高山で暮らし美しい毛並みを持つユキヒョウや、寒冷地に生息しネコ科動物の中で最大の体躯を持つシベリアンタイガー（アムールトラ）、そしてもちろん忘れてはいけないのが、メソポタミア文明や古代ペルシャ文明のレリーフにも登場するアジアライオン（インドライオン）である。

LIONS ON LOCATION

## イスラエル

# 高齢者の平和ポスター・コンテスト

テーマは平和。白いキャンバスが挑戦の場。その絵画コンテストの参加者には何人か、目の見えない人もいた。

イスラエルのライオンズは、「ゴールデンエイジ・ペインティング・コンペティション」と題し、高齢者を対象とした絵画のコンテストを開催した。課題として与えられたのは、宗教の経典、聖典などに記されている題材を盛り込んで平和を表現すること。例えば、旧約聖書イザヤ書の「彼らは剣を打ち直して鋤（すき）とする」「国は国に向かって剣を挙げてはならない」といった一説を絵のエッセンスにするのだ。

イスラエルと言えばユダヤ教を信教とするユダヤ人の国であるが、ライオンたちはコンテストの参加者募集において、宗教を限定するルールは設けなかった。その結果、40点の作品が提出され、作者の出身国はイスラエルだけでなく、アルゼンチン、ベルギー、ロシア、スイスと広く、描かれた場面の出典もまたユダヤ教、キリスト教、イスラム教と多岐に及んだ。

バラエティーに富んだ作品の中から審査員たちが1位に選んだのは、イスラエル・アシュケロンの街に住む73歳のイーライ・ザファティの作品だった。彼の絵では赤い色が戦争を象徴している。おびただしいチョウが戦いの風を抑えるために飛びまわり、戦車の内側には平和の種をまくために土を耕す人が描かれている。特別賞を受賞したのは、イスラエル出身のライオンジラ・エズラ。彼は目が見えない参加者の一人である。

このゴールデンエイジ・ペインティング・コンペティションは、クネセトと呼ばれるイスラエル国会の議事堂で開催された。この議事堂があるのはイスラエルのエルサレム。イスラム教、キリスト教、ユダヤ教という3大宗教の「聖地」となっている場所である。

特集：アラート（災害支援）

# ライオンズクラブによる災害支援活動を考える

「天災は忘れた頃に来る」

この有名な警句は、地球物理学者で随筆家でもあった夏目漱石の一番弟子・寺田寅彦が言ったとされ、災害が起きたり、防災を語ったりする時によく使われる。

そして、実際に大きな災害が起こると、その度に「備えあれば憂いなし」と、防災意識が高まる。が、時が経つにつれ「喉元過ぎれば熱さを忘れる」式に危機意識が薄れ、また忘れた頃に天災が起こることになる。

ライオンズクラブでも、阪神・淡路大震災や東日本大震災といった大規模災害が起きた後や、身近な地域が被災した時にアラート・プログラムへの関心が強くなるが、いつの間にか忘れ去られるという繰り返し。一部のクラブや会員を除いて、それが次の災害に生かされているとは言い難いのが現実だ。

そんな状況を何とかしたいと、本誌では何度か、ライオンクラブの災害支援活動について取り上げてきた。新潟県中越沖地震の翌年の2008年、そして東日本大震災から3年が経った2014年には、それぞれ特集を組んでもいる。そこで今回は、その2回の特集をベースに、ライオンズによる現実的なアラート活動につなげてみたい。　（取材／鈴木秀晃）

## 災害支援活動への道は日頃からの地域貢献

2008年の特集では、04年に中越地震、07年に中越沖地震と、3年間で二つの大きな地震に見舞われた新潟県のライオンズによる体験談と、防災専門家によるライオンズの役割についての提言でまとめている。

提言を寄せてもらった防災専門家は、現在、エクスプラス災害研究所の所長を務める伊永勉（これながつとむ）氏。伊永氏は阪神・淡路大震災においてボランティア・ネットワークを設立し、官民連携のボランティア活動を推進。その後、国内外の災害支援及び防災計画に携わり、335-A地区の災害救援マニュアル作成にも関わった。

提言で伊永氏は、ライオンズクラブは行動力と決断力を持ちネットワークも整っているため、災害に強い地域づくりを構築する上で、中枢を担える組織だと言う。また、地域に潜在するスキルの代表として、住民の自主防災力を高める活動をするのにも、最適な団体だと述べている。

そして、自分の地域が被災地となった場合も、ライオンズは大きな役割を担えるはずだとして、伊永氏は、

●時間の掛かる行政の対策準備の隙間を縫って、住民の直接支援の情報を全国に発信出来る
●ヒト・モノ・カネの全てを集める能力と場所がある
●地元の自治体や公的機関からの信用もある

といった点を理由に挙げた。

その上で、日頃から地域貢献の実績があるライオンズクラブは、災害時に名乗り出さえすれば、官民共に信頼される位置での支援体制が築ける団体だと強調。個人の力には限界があるが、組織としての総合力は計り知れないパワーを発揮する。その潜在力が生かされることを期待する、と語っていた。

更に、ライオンズクラブの会員はそれぞれの事業を通じて、災害時に地域に役立つスキルを持っているはずであり、それを生かす方法を日常から認識しておくべきだとして、具体的な例も挙げていた。

●避難所の遠い人や通勤途中の人のために事業所の駐車場を解放する
●地元スーパーで食料品の優先提供を約束する
●事業所に町内のための消火器を複数設置する

◆

一方14年の特集では、12年の福岡フォーラムで行われたアラート・ミ

土日や連休には、休みを利用して大勢のボランティアが被災地に駆け付け、その受付だけでも大きな労力が必要となる

ニフォーラムの内容を元に、災害支援の在り方を考えた。ミニフォーラムでは、災害支援の課題として「何がどこで必要かが分からない」「適切な情報が得られない」「(支援物資の)適切な送付先が分からない」「支援方法が分からない」などが挙げられた。その時の記事でも触れているが、多くの災害ボランティアセンターを立ち上げている社会福祉協議会ですら、東日本大震災支援全国ネットワークの報告書では、「支援したい気持ちはあるが、何をしてよいのか分からないので、まずは自分たちが出来ることを、とする社協が多いのではないか」と述べている。

災害はいつどこで起こるか分からないだけに、対応が難しいのは確かだ。ではそうした中で、現実問題としてライオンズは、どういう支援活動が出来るのか？ 阪神・淡路大震災と東日本大震災の経験者にこの質問をぶつけたところ、両者の答えは同じ言葉「後方支援」だった。以下、その時の記事を少し引用してみよう。

「多くのボランティアは、何日にもわたって被災地に入り活動をします。ライオンズの中にも、そうして活動しているメンバーがいますが、誰もが同じようには動けません。そこで今のライオンズが出来る現実的な活

動として、ボランティアの支援という選択肢があります。朝、ボランティアの皆さんに一杯のコーヒーを振る舞ったり、疲れて帰って来た人たちを労って温かい食べ物を提供したり、いろいろな方法があります。組織としてであれば、ボランティア・バスを仕立てて、被災地にボランティアを送る活動も有効でしょう」

335‐A地区緊急災害出動チーム・コーディネーター（当時）のライオン橋本維久夫（兵庫県・明石魚住ライオンズクラブ）は、阪神・淡路大震災以来の数々の災害支援の経験を基にそう話す。

「大多数の人は、何かしたいけど何をしていいか分からない、と言います。その気があるなら、ボランティアセンターに行けば何が出来るか見えるんですが……」（ライオン橋本）

このライオン橋本の意見に同調するのは、12‐13年度332‐C地区ガバナーとして、東日本大震災復興支援の陣頭指揮を執ったライオン佐藤義則（宮城県・蔵王ライオンズクラブ／現ライオン誌日本語版編集長）だ。ライオン佐藤は災害時にライオンズはどのような活動が出来るかを考えるため、14年7月に豪雨災害が起きた山形県南陽市のボランティアセンターを訪問。その中で、水や食料はもとより、ボランティア作業に必要なマスクや軍手、スコップなど、ライオンズとして支援出来る要素がたくさんあると確信した。

「被災地では宿泊にしろ食事にしろ、全てボランティアの自己負担です。そんなボランティアをバックアップし、環境を整えてあげることも、被災地の支援に直接結び付く活動であり、ライオンズクラブらしいアクティビティではないかと思いました」

災害ボランティアセンターが設置され、被災地内外からボランティアを受け入れることになった場合、受け付け準備や駐車場の確保、活動に必要な資材の用意をしなくてはならない。ライオンズがそれらを支援することは十分に可能だ。また地理に明るい地元の会員がボランティアを誘導することで、活動をスムーズに進めることも出来る。

「そのためには、日頃からボランティアセンターの運営母体となる社会福祉協議会との関係を構築しておくことが必要です。各クラブがそれぞれ社協と連携を取っておけば、少なくとも市町村単位や県単位の災害には対応出来るでしょう」（ライオン佐藤）

この二人の意見を基に、今回の特集ではライオンズとしての後方支援の可能性を具体的に探ってみよう。

## ボランティアセンターの開設から運営の実際

東日本大震災では岩手、宮城、福島の被災3県に104のボランティアセンターが設置された（全国では196カ所）。宮城県・東松島ライオンズクラブのライオン佐々木章は、その一つ東松島市社会福祉協議会会長として、福祉避難所や災害ボランティアセンターの開設・運営に当たった。

東松島市は松島町と石巻市に挟まれた太平洋沿岸にあり、東日本大震災では津波で市全体の6割が浸水し、全世帯の7割を超える家屋が全・半壊、一部損壊を含めると実に97％の家屋が被災した。震災で亡くなった市民は1110人、行方不明者24人で、一時は人口の半数に当たる2万人が避難生活を送った。

ライオン佐々木は地震の瞬間、社会福祉協議会の事務所で会議中だった。地震発生3分後の午後2時49分にJ‐ALERTが大津波警報を発表。市

昨年の熊本地震で337-E地区は被災地支援隊を結成。福祉避難所に指定されていた南阿蘇村の旅館を拠点に食事の支度や被災家屋の片付けなどを実施した

の防災行政無線は、警報を繰り返し放送した。事態を重く見たライオン佐々木はすぐさま社協事務所に災害対策本部を設置すると共に、福祉避難所の開設を決めた。それが午後3時。地震発生から約15分後のことだった。

福祉避難所とは、災害対策基本法に定義された「高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する」被災者のために設置されるもので、東松島市の場合は社協事務所に併設する老人福祉センターに開設した。開設が決まると、職員総出で玄関前にテントを張り、非常用発電機を起動。更に集会室へベッドや寝具、ストーブ等を搬入した。また食料や水の確保、調達も併せて行い、福祉避難所の受け入れ体制を整えた。ライオン佐々木は社協会長として「非常事態宣言」を行い、通常業務は執行停止し、災害対応に全力投入することとした。

東松島市は03年に震度6弱以上が1日のうちに3回を数える連続地震の震源地となった。その際、社協で福祉避難所を開設・運営した経験があったため、ほとんどの職員が、福祉避難所の開設が最優先の任務との共通認識を持っていた。そのおかげで、準備作業はスムーズに進んだが、被害規模が全く把握出来ず、「要配慮者」が何人来るのか見当がつかなかったという。

地震発生から2時間後、ずぶ濡れで最初の被災者が運び込まれてきた。以後、救急車やパトカー、あるいは家族に抱えられ、寝たきりのお年寄りや障害を持った方が続々と避難してきた。一時、福祉避難所の中は廊下やロビー、玄関前まで人があふれ、足の踏み場もない状態となった。

避難者が増える中、備蓄食料ではまかなえず1日2食の状態が続いた。そんな時、ライオンズクラブの支援物資として食料が届くことが分かった。ライオン佐々木がクラブに対し、福祉避難所の窮状を訴えたところ、居合わせた全会員が福祉避難所への支援に賛同。届いた積み荷の中から、東松島ライオンズクラブ分の5キロ入りタマネギ、ニンジン、ジャガイモ各5袋が福祉避難所へ運ばれた。更に数日後、支援物資の第2弾があり、この中からも、福祉避難所用の米やトイレットペーパーの他、災害ボランティアセンターで使用する長靴50足などが社協へ配分された。

東松島市の災害ボランティアセンターは3月19日に、社協に隣接する保健相談センターの2階に開設した。地震発生から1週間以上経過してからの設置だが、当初はボランティアの募集よりも、自衛隊や警察、消防

などによる人命救助や捜索活動、また道路の復旧を優先させたためだった。また、社協職員の大半は福祉避難所の運営に追われていた上、災害の規模が大きすぎ、何から手を付けていいのか分からなかったというのも事実だった。そのため、災害ボランティアセンターは、復旧作業が進み始め、全国社会福祉協議会が主体となった社協のネットワークにより、高知県社協からの応援職員が配置されてからの開設とならざるを得なかったのだ。

しかも政府が、緊急小口資金を被災世帯にも適用する特例措置を講じたことから、その窓口となる社協の業務が拡大。そちらにも人員を割いた結果、災害ボランティアセンターの運営スタッフは3、4人という人員不足状態となり、県外ボランティアの受け入れを一時中断する場面もあった。そのため、県内外から派遣された社協職員や自治体職員にも、最初から運営に携わってもらい、更にはNPO法人や長期で活動する個人ボランティアにもスタッフに加わってもらって、難局を乗り切った。

ただ、運営スタッフは、外部スタッフや被災者の手前、休むことを口にすることが出来ず、疲労はどんどん蓄積された。災害ボランティアセンターの無休体制が解消されたのは震災から4カ月近く経った7月4日になってからのことだった。

こうした経験から、L佐々木は災害ボランティアセンターの運営スタッフに、活動経験のある個人ボランティアやNPOに加わってもらったり、ライオンズクラブのような信頼出来る団体と協力体制を確立したりすることが必要だと話す。

そこで少し具体的に、災害ボランティアセンターの活動内容を見ていこう。災害によって若干の違いはあるだろうが、基本的には次のような活動が中心となる。

①被害状況の把握
②被災者からのニーズ調査
③資機材調達
④車両調達と運転者の確保
⑤ボランティア受付
⑥被災者ニーズとボランティアのマッチング
⑦避難所や仮設住宅団地におけるサテライト運営

このうち③の資機材に関して、東松島市災害ボランティアセンターの場合、センターを開設しても、当初は作業をするための資機材が不足し、ボランティアに待機してもらうこともあった。開設から2日後に、愛知県名古屋市のNPO法人が、大量の資機材を支援してくれたことで、状況は改善されたが、各社協とも資機材を常備しているわけではなく、これはどこの被災地でも大なり小なり起こりうる事態だろう。16年4月に起こった熊本地震の際、本震から1週間以上が経った24日に被災地の一つ西原村を取材したが、災害ボランティアセンターは翌日からの開設を目指し、資機材の調達や、通信手段の整備を行っているところだった。前述した14年の特集で、L佐藤が提案したように、ボランティア活動に必要な資材をライオンズクラブが提供することも十分考えられるだろう。

④について、東松島市災害ボランティアセンターでは、3月25日から民生委員と児童委員が、ボランティアの送迎に加わった。特に県外から来るボランティアの場合、土地勘がないため、地元の人の案内があった方が、効率的に活動してもらうことが出来る。また、作業場所までの資機材の運搬や、被災家屋から運び出した家具などをがれきの集積所へ運ぶ活動もある。東日本大震災の折、関東で最も被害が大きかった千葉県旭市の飯岡ライオンズクラブは、被災を免れた会員が災害ボランティアセンターに入り、上記⑤のボランティアの受付と、⑥のマッチングの後、作業場所までのボランティアの送迎を担当した（関連記事36ページ「東日本大震災復興だより」）。

また個人でも、兵庫県・明石魚住ライオンズクラブのL西本吉幸が、11年4月6日から3週間、岩手県遠野市を拠点とする遠野まごころネットのスタッフとして、ボランティアの作業道具を運搬する仕事を担当した。トラックの小さな運転席に寝泊まりしながら活動したL西本は、自身の経験から、ボランティアに対する支援も必要だと語っていた。

東日本大震災の折、被災地の一つ千葉県旭市の飯岡ライオンズクラブは、災害ボランティアセンターのスタッフとしてボランティアへの後方支援に当たった

「ボランティアは暖房の無い体育館で寝泊まりし、食事は遠野のコンビニで調達するなど過酷な状況で活動を続けていました。『ボランティア難民』とも呼ばれていましたが、今後はボランティア活動をする人たちにも温かい手を差し伸べることを考えるべきでしょう」

## 行政や社会福祉協議会との連携が鍵

先の飯岡ライオンズクラブの活動は、まさにL佐々木が、ライオンズクラブなどに関わってもらえたら、と語っていた分野で、具体的には、

①受付時にボランティア保険加入の有無をチェックし、未加入者には手続きをしてもらう
②被災者ニーズとボランティアの活動希望のマッチングを行う
③ボランティアの作業場所までの案内を行い、県外のボランティアなどの場合は車両で送迎する
④各地のライオンズクラブから届く支援物資を、ボランティアセンターと協議の上、必要な場所へ搬送する
⑤ボランティア参加者へ飲み物を提供する（飲み物は各方面からの支援で賄った）

などだった。飯岡ライオンズクラブの事務局長を務めるL守部幸一（飯岡地区社会福祉協議会会長）によると、飯岡ライオンズクラブがボランティアセンターに入って活動出来たのは、以前から社協と密接な関係を築いていたことが大きいという。それは、冒頭で紹介した伊永氏の言葉「日頃から地域貢献の実績があるライオンズクラブは、災害時に名乗り出さえすれば、官民共に信頼される位置での支援体制が築ける団体」であることを裏付けるものでもあろう。

15年9月に発生した関東・東北豪雨災害では、333-E地区（茨城県）が地区を挙げて、被害の大きかった常総市で奉仕活動を展開。当初、常総市では災害対策本部となる市庁舎が被災し、行政で物資の受け入れを管理するのは難しい状態にあった。そのため、ライオンズクラブとして救援物資センターを開設することを決め、市と交渉の上で市役所新庁舎の2階に会員が交替で常駐。約2週間にわたって救援物資センターを運営し、常総市周辺のクラブを中心に、ライオンズを始めとするさまざまな団体、個人から寄せられた支援物資の受け入れと配布業務を担った。

更に、こうした活動を間近で見ていた常総市から、避難所での食事について相談を受け、地区内クラブでローテーションを組み、館内で火が使えない体育館に避難している人たちのため、炊き出し奉仕を約1カ月継続した。この時、当時の下川利澄地区ガバナーは、これだけの活動に対応出来るのは、人的、資金的に見てライオンズだけだと判断。即決で常総市からの要請を受け入れた。が、実際には、地区からの資金援助を受けず、自クラブのアクティビティとして炊き出しを行ったクラブがほとんどだったという。

その辺りもライオンズらしいと言えばライオンズらしいが、この事例もまさに、ライオンズが「官民共に信頼される位置での支援体制が築ける団体」である証だろう。

◆

ここでもう一つの提案「ボランティア・バスを仕立てて、被災地にボランティアを送る活動」（L橋本）についても考えてみよう。

東松島市の災害ボランティアセンターでは、4月中旬以降、ボランティアの受け入れ混雑を避けるために、ボランティアバス・パックや団体受付によるエリア対応（直接現地集合、活動、解散する仕組み）を取り入れた。まず前線基地として、大型バスが乗り入れ可能な5カ所にサテライトを設置。事前に申し込みがあった団体ボランティアは、サテライト基地から直接、派遣要請があった場所へ出向いてもらう「直行直帰」システムを確立した。

これにより、作業場所の地図配布から作業内容、注意点などの説明が、団体のリーダーだけで済むようになり、送迎車両の手配も含め、時間も人員も省くことが出来たという。そして、この「直行直帰」システムが、復旧作業の効率化と、多忙を極めた災害ボランティアセンターの業務軽減に大きく貢献。L佐々木は、「ライオンズクラブが組織的にこうしたボランティアバスを運行してくれれば、被災地にとって非常に大きな支援となるだろう」と話す。

その一方でL佐々木は、ライオンズクラブを含むボランティア団体が、炊き出しや演芸、マッサージ、理美容などの支援活動を行う際の「ある傾向」について話してくれた。

「どの団体でも、それぞれの得意分野で支援をしてくださるのは非常にありがたいのですが、実績をアピールする必要上なのか、活動場所として、どうしても人数が多い避難所や大きな仮設住宅を訪問する傾向があります。実際に小さな所からは不満が聞かれましたし、支援格差も生じ

2015年の関東・東北豪雨災害で333-E地区は、最も被害が大きかった茨城県常総市からの依頼を受け、市庁舎や避難所における支援物資の受け入れと配布、更には被災者に対する毎夕食の炊き出しを担当した

関東･東北豪雨災害や熊本地震では、過去の災害支援でつながった各地のライオンズクラブが協働して、ボランティアを支援するための炊き出し奉仕を実施した

ることになるので、出来ればボランティアセンターを通して調整して頂ければと思います」（ライオン佐々木）

これは、長年にわたり災害支援の現場に立つライオン橋本も感じていたことだという。そのため、この3月11日に千葉県木更津市で開かれたアラート・フォーラムのパネル・ディスカッションでは「被災地での活動はライオンズのPRの場ではない」点を含め、「被災者と同じ目線で活動しているか」「その時々の被災地の状況把握は出来ているか」「長期にわたっての物資支援等は地域復興を妨げ、被災者の復興意欲をそぐ」「地区単位での義援金を自治体等に丸投げするのはいかがなものか」など、自らの体験を基に、被災地で活動する上での注意点や禁忌事項を上げた。

このパネル・ディスカッションでは北は北海道から南は九州まで、ここ数年の災害において協働した会員たちがパネリストを務めた。ここで、その要旨を紹介しよう。

「13年の福知山の水害に、SNSで岐阜のライオンズから提供された情報を下に、クラブの有志で集めた支援物資を送付したのが災害支援に取り組むことになったきっかけ。以後、常総の水害や熊本地震ではクラブや地区と共に活動。それらの下地があ

ったため、昨年8月に北海道を襲った台風10号災害では、自分たちから情報発信をして支援活動につなげることが出来た」（ライオン豊島信一／北海道・伊達ライオンズクラブ）

「東日本大震災後、ライオンズにおける災害支援は進歩しているのか？アラート・プログラムの必要性に対する思いは感じ取れるが、それを具体的に形に変え行動しているかと言ったら多少疑問がある。ここ数年、各地の災害現場で活動させて頂いている。現地に入りニーズを探り、自分たちが出来る身の丈に合った支援をさせて頂く。やることはたったこれだけのことだが、支援内容は常に異なっているのが現実。そんな中、ライオンズに出来る最大限の支援活動に取り組んでいきたい」（ライオン木村知紀／青森ZEROライオンズクラブ）

「当クラブは東日本大震災と熊本地震で約1週間の炊き出しを行ったが、現地調整に苦労した。関東・東北豪雨災害は同じ地区だったこともあり、当初から行政とつながり支援物資センターを運営させて頂いた。その経験から、地元ライオンズに対する行政からの信頼は厚く、災害支援での大きな可能性を感じた。発災当初は行政もボランティアセンターも混乱している。日頃から行政や社協に、我々が出来ることを提示し事前協議しておくことで、効果的で素早い対応が可能になると思う」（ライオン若林純也／茨城県・水戸葵ライオンズクラブ）

「335複合地区は関西広域連合と『災害時におけるボランティア支援に関する協定』を締結。これを受け335-B地区は各クラブに対し、①アラート委員会設置と緊急支援活動計画の策定②理事会及び例会の決議を経ずに使える緊急災害支援準備金の整備③地元社会福祉協議会との関係強化の3点を要請。更に現在、200人を超える有志メンバーでアラートチームのネットワーク構築を推進している。今後、勉強会等を通じ知識やスキルを身に付け、素早い災害支援活動につなげたい。なお現在、地区内の4大社協（大阪府社協、和歌山県社協、大阪市社協、堺市社協）との間で、より具体的な個別協定の締結を模索している」（ライオン坂本惠市／大阪府・松原ライオンズクラブ）

「熊本地震発生に伴い、クラブとして独自に現地と調整し、必要な物を必要な所へつなぐハブ的な役割を担うことを決定。その中で全国のライオンズとつながることが出来、この連携と知識がアラートの大切さを再認識させてくれることとなった。人として、ライオンとして、何かをしたいと思っている方々がたくさんいるのがライオンズクラブの強みであり、地区やクラブは違っても思いは同じ。これが原動力となり支援の糧となって、継続的なアラート活動になるのだと思う」（ライオン石永扶佐夫／佐賀県・武雄ライオンズクラブ）

最後にライオン橋本は、災害支援について次のように話し、アラート活動とは何も難しいことではなく、人として自然な行為であることを強調した。

「大災害が発生し、多くの被災者が出た時、どのように感じるでしょうか？　その時に『誰かの（何かの）役に立ちたい』と思うのは、そんなに『特別な感情』でしょうか？　人としてライオンズとして、それは『自然な感情』なのではないでしょうか。人としての自然な思いが、心身に湧いてくるのが普通であり、その思いを自然体で支援活動につなげることが、ライオンズのアラート活動だと思うのです」

国際理事だより

■国際理事
佐藤宜之
（大分）

# 台南フォーラム・ステアリング委員会報告

第56回OSEALフォーラムは2017年11月17日～20日、台湾の台南と高雄で開催されます。台南の本部ホテルにて会議・セミナー・閉会式等が、高雄にて開会式・フードコート等が行われる予定で、二つの都市で開催される少し変則的なフォーラムになります。

その準備のため、2月10、11日にステアリング委員会が開催されました。日本では鳥取県を始め日本海側で大雪が降ったとニュースが伝えており、台湾も異常気象で寒い2日間でした。

初日は本部ホテルとなる台南昌英ホテルを出発し、高速道路で開会式会場の高雄ドームへ視察に行きました。バスで約45分から1時間程度掛かります。大会当日は台南から高雄までシャトルバスを走らせるそうですが、何千人もの参加者を運ぶのは大変なことだと感じました。高雄ドームは2万人以上の収容が可能で十分な広さが確保されています。視察後本部ホテルに戻り、歓迎晩餐会で1日目を終了しました。

その日の夜中、突然大きな地震に襲われ驚きました。地震の少ない国の人たちは翌朝その話題でもちきりでした。

2日目の会議では次の内容について協議し採択されました。

・フォーラムテーマ「I LOVE LIONS」が発表されました。私たちがライオンズクラブを更に熱愛することを強調したテーマです。

・OSEALフォーラム規則を検討しました。前回の香港フォーラムで採択された規則の報告があり、スタンディング（常任）委員会により提案されたOSEALフォーラム入札参加申請書、国際理事及び国際副会長候補者の資格要件などを確認しました。

・その他、大会日程、開・閉会式のスケジュール、会議・セミナーの日程、登録予定人数、大会予算などが協議されました。その中で山田實紘LCIF理事長・前国際会長から「セミナーが英語・日本語・韓国語・中国語と言語別のセミナーになっているが、テーマ別のセミナーにした方がよいのではないか。自国語でやるセミナーをわざわざ台湾まで来てやる必要はなく自分の国でやればよい。各国のライオンが集まりいろんな国の実情を話し合う方が有効ではないか」という提案がありました。私も過去に日本語セミナーに参加してみて、海外で開催するセミナーとしては何か違うのではないかと感じていたので、ぜひテーマごとのセミナーにしてほしいと思います。

最後に、第5会則地域（OSEAL地域）の国及び地理的領域による地区区分をご紹介しますので、再確認してください（※別表1）。

■第5会則地域（OSEAL地域）　※別表1

| 地区 | 国または地理的領域 |
|---|---|
| 204地区 | グアム、ミクロネシア、サイパン、パラオ |
| 300地区 | 台湾 |
| 301複合地区 | フィリピン |
| 303地区 | 香港及びマカオ |
| 308地区 | マレーシア、シンガポール及びブルネイ |
| 310複合地区 | タイ |
| 330～337複合地区 | 日本 |
| 354～356複合地区 | 韓国 |
| 380～383、385～390地区 | 中国 |
| 地区未編成 | モンゴル、カンボジア、ラオス |

ライオンズ・ニュース・カセット

# LIONS NEWS CASSETTE

## 次年度地区ガバナー就任に向けたGMT／GLTエリア研修

【玉川孝337複合地区GLTコーディネーター】2月5、6日、大阪市のホテル大阪ベイタワーにおいて国内各地区の第1副地区ガバナーを対象にしたGMT／GLTエリア研修が行われた。国際協会が定める第1副地区ガバナーの研修プログラムは、①個人研修（ウェブ研修）、②複合地区研修、③GMT／GLTエリア研修、④地区ガバナー・エレクト・セミナーの四つで構成されている。今回の1泊2日の研修ではまず、中村泰久国際理事から国際理事会の概説があり、鈴木誓男GMT会則地域副リーダー、不老安正GLT会則地域副リーダー、長澤千鶴子FWT会則地域副リーダーからそれぞれのチームに関する説明を受けた後、セッションが始まった。

GMT／GLT研修に規定されたセッションは、「LCIフォーワード」（講師：丸山正芳GMTエリアリーダー）、「団結の力」（講師：牛木護GLTエリアリーダー）、「変革リーダーシップの実践」（講師：金子正之GMTエリアリーダー）、「ビジョンを現実に」（講師：城阪勝喜GLTエリアリーダー）。「LCIフォーワード」ではライオンズの5カ年戦略プランを確認し、2021年まで年間の奉仕の受益者を2億人以上にする目標などを巡って討議が行われた。「団結の力」では優れたチーム作りの重要性が、「変革リーダーシップの実践」では正しい変革のためのスキルが示された。「ビジョンを現実に」のセッションの中では、会員増強と指導力育成の二つの分野でS・M・A・R・T（S：具体的、M：測定可能、A：実行可能、R：現実的、T：期限付き）目標と行動計画を策定してそれをオンラインで提出するプロセスが、濱野雅司330・C地区ガバナーからスライドを用いて詳細に説明された。これらのセッションに加えて、前国際会長である山田實紘LCIF理事長による「日本ライオンズの今後」、高田順一100周年記念実行委員会会則地域副委員長による「ニーズがあるところに、ライオンズがいる」のスピーチも行われた。

各セッションを通じて、受講者からは建設的な意見や質問が多く出された。地区の成功のためには地区指導者チームのメンバーの資質や心構えが重要であることが改めて確認されたものと思う。中身の濃い研修を終え、次年度に向けて決意を新たにされた第1副地区ガバナーの皆さんの活躍が期待される。

## 地区を超えた交流の場となった335複合地区次世代リーダーフォーラム

【団英男335複合地区GLTコーディネーター】2月20日、大阪市のホテル日航大阪で335複合地区GLT主催の次世代リーダーフォーラムが開催され、各地区で次のリーダーを目指すメンバー120人余りが集まった。335複合地区に

おいて毎年定期的に開かれるこのフォーラムは、各地区に設置されている若手会員育成の委員会メンバーが中心となって準備する。今回は元334-E地区ガバナーのライオン佐藤義雄に「10年後のライオンズクラブ」のテーマでライオンズの基本、会員の意欲喚起、クラブ目標の設定と達成、チームワークなどについて講演して頂いた。続いて講演の内容を基に、参加者が15テーブルに分かれてワークショップを実施し、意見を出し合った。各テーブルの代表者による発表では、ユニークなものから実践的なものまでさまざまなアイデアが出された。発表を行った女性会員からは「今日は女性の参加が少ないのが残念でしたが、2、3年後には女性の比率を50％に引き上げ、これからのライオンズを担う女性会員の増強と育成を考えたい」という心強い発言があり、会場からは大きな拍手が送られていた。

特に印象深かったのが、このフォーラムが友情を育み合いながら参加者それぞれの持つ不安や悩みを相談し合える場になっていることだ。フォーラムの後にあった懇親会の席上でも活発な話し合いがあり、地区の垣根を超えた交流は参加者にとって非常に有意義な経験として、今後の活動の大きな糧となったようだ。

## 国際大会へ派遣するクラブ代議員の任命

本誌2月号既報の通り、シカゴ国際大会から代議員の資格証明と投票の方法、日程が大きく変更される。クラブが代議員を任命する方法には、今大会から新たに国際本部の報告システムＭｙＬＣＩを利用する方法が加わり、代議員資格証明用書式（左ページ掲載）を送付する方法との二通りとなった。

ＭｙＬＣＩを使用すれば、オンラインで簡便に代議員の任命手続きと確認書の印刷が行える上、大会直前の6月28日まで任命や変更をすることが出来る。ＭｙＬＣＩを使用せずに代議員資格証明用書式を提出する場合は、書式に必要事項を記入して5月1日までに国際本部へ送付し、代議員の任命が完了するとEメールで代議員確認書が届く。代議員は確認書と身分証明書を大会センターに持って行き、資格証明を受けると直ちに投票用紙が渡されて、投票が出来る。資格証明と投票の日程は次の通り。

7月2日（日）13時～20時
3日（月）9時～20時
4日（火）7時半～10時半

代議員に関して詳しく説明した「資格証明と投票に関するよくある質問」の資料は、国際協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「ＬＣＩＣＯＮ」でダウンロード出来る。またＭｙＬＣＩによる代議員任命の手順は、太平洋アジア課日本語サイト（https://sites.google.com/site/pacificasianja/home）に説明があるので参照されたい。

## シカゴ国際大会会期中のガイド付き本部ツアー

今年6月30日～7月4日にアメリカ・イリノイ州シカゴで開催される第１００回ライオンズクラブ国際大会には、協会創設１００周年を共に祝福しようと世界中から大勢の参加者が集うことが予想される。開催地シカゴはライオンズクラブのホームタウン。国際協会発祥の地であり、現在も近郊のオークブルックに本部事務局がある。そこで今大会の会期に合わせて、参加者が本部事務局を訪問するためのガイド付き本部ツアーが企画されている。現地シカゴの旅行会社が主催する大会会場のマコーミック・プレイス発着ツアー（国際本部往復バス旅費を含む）は1人35ドル。旅行会社のツアーを利用せず個々に国際本部を訪れる個人ツアーは1人10ドルで、空きがあれば無料駐車場が利用可能。個人ツアーの場合は事前に登録が必要となる。国際

**クラブ代議員資格証明用書式**
（ローマ字で記入）

２０１７年国際大会クラブ代議員の任命は、次のいずれかの方法で行うことができます。

- MyLCI >>> ライオンズクラブ >>> 国際大会代議員
- 本書式をライオンズクラブ国際協会へ提出

クラブ代議員任命の確認書が、クラブ代議員に E メールで送信されます。クラブ代議員の E メールアドレスが記録されていない場合には、クラブ役員に送信されます。

クラブ番号：______________________

クラブ名（ローマ字）：______________________

クラブが所在する市：______________________ 都道府県：______________________ 国： JAPAN

代議員の会員番号：______________________

代議員の氏名
ローマ字（ファーストネーム・ラストネーム）：______________________

代議員の E メールアドレス：______________________

投票用紙の言語： Japanese

承認するクラブ役員：*（一つお選びください）* ☐ クラブ会長 ☐ クラブ幹事

役員の会員番号：______________________

役員氏名：ローマ字（ファーストネーム・ラストネーム）______________________

役員の署名：______________________

本書式を以下へ送付する場合は、2017 年 5 月 1 日必着：
Member Service Center
Lions Clubs International
300 W. 22nd St.
Oak Brook IL USA 60523
MemberServiceCenter@lionsclubs.org 電話 1-630-203-3830 Fax 1-630-571-1687

このクラブ代議員資格証明用書式を使用して代議員を任命するクラブは、2017 年 5 月１日までに必着で、
書式を国際本部へお送りください。
5月１日を過ぎると、署名された書式を、政府発行の顔写真入り身分証明書（パスポート等）とともに、
国際大会に持参する必要があります。
MyLCI を使用するクラブは、2017 年 6 月 28 日までに代議員を任命しなければなりません。

協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の国際大会ページ「LCICON」内に詳しい説明があり、オンライン登録を受け付けている。なお、日本の各地区公認ツアーの中にはガイド付き本部ツアー参加を組み込んだものが用意されている。

現在の国際本部ビルは1971年6月に完成した。創設100周年を迎えるに当たり、創設者メルビン・ジョーンズゆかりの品々――イギリスのウィンストン・チャーチルから贈られたライオンの敷物、書類ケースとパスポートなど――を飾った部屋を改修するなどリニューアルが図られており、世界中からの見学者を迎える準備が着々と進んでいる（写真は改修前のメルビン・ジョーンズの部屋）。

## 国際大会開催予定

第100回＝17年6月30日～7月4日／アメリカ・イリノイ州シカゴ

第101回＝18年6月29日～7月3日／アメリカ・ネバダ州ラスベガス

第102回＝19年7月5日～9日／イタリア・ミラノ

第103回＝20年6月26日～30日／シンガポール

第104回＝21年6月25日～29日／カナダ・モントリオール

## 会議録

■**第4回複合地区国際大会委員長【ウェブ】連絡会議**（2月2日）Ⅰ第100回シカゴ国際大会①パレード頒布品コンペ②インターナショナル・パレード③日本ライオンズ朝食会・代議員会Ⅱ第56回東洋・東南アジア（OSEAL）フォーラム

■**第3回複合地区会則委員長連絡会議**（2月6日）①前回会議要録の確認②複合地区会則改正案の検討③2017・18ライオンズクラブ役員必携の改訂④2017・18ライオンズクラブ役員必携の頒布方法⑤その他

■**第3回複合地区YCE委員長連絡会議**（2月6日）①春・夏期交換ⓐ派遣生ⓑ来日生②YCE関連締切について

■**第7回ライオン誌日本語版委員会**（2月8日）①ライオン誌日本語版の運営②2017年2月号（1月20日見本／9万5200部発行）出来③3月号記事内容の確認④4月号以降台割（案）と主要記事予定⑤ライオン誌デジタル化⑥その他

■**第2回複合地区IT委員長【ウェブ】連絡会議**（2月14日）①「eMMRからMyLCIへの移行」に関する国際協会への日本からの要望事項について②現在までの「国際協会からの回答」について③「MyLCI移行担当チーム（仮称）」について④「MyLCI移行へのアプローチと今後のステップ」について⑤「今後のeMMRからMyLCIのあり方」のイメージ

■**第7回複合地区ガバナー協議会議長【ウェブ】連絡会議**（2月21日）【国際理事案件】①セカンド・センチュリー・アンバサダー・レセプションの開催概要（暫定）②MyLCI関連最新情報③第56回OSEALフォーラム（台南）第1回ステアリング委員会報告④OSEAL常任委員会報告【議長会案件】⑤複合地区会則改正案について⑥シカゴ国際大会パレード・ユニフォームについて⑦確認事項⑧各種委員会⑨日本ライオンズ会計報告

## 新結成／解散クラブ

■**新結成クラブ**

千葉レスキュー（大淵彰雄会長／20人）▼1月31日認証▼スポンサー／船橋翼

## ライオンズクラブ100周年記念コイン発売中

ライオンズクラブ国際協会はアメリカ合衆国造幣局の協力を得て、人道奉仕活動の100年の歩みを記念する1ドル銀貨を期間・数量限定で販売している。コインの表には創設者メルビン・ジョーンズの肖像とライオンズクラブのロゴ、裏側には地球を背後にライオンの家族が描かれている。記念コインは40万個限定で、2017年12月末までの期間限定で販売（完売次第終了）。コイン1枚につき10ドルがライオンズクラブ国際財団（LCIF）をサポートするために寄付され、世界中で行われる交付金事業を通して恵まれない人々の生活の向上に活用される。完売した場合、寄付総額は400万ドルとなる。

価格：52.95ドル
（別途、米造幣局の手数料1個につき2.95ドルと国内運賃が必要）
素材：銀90%　銅10%
サイズ：直径約3.8センチ　重量：26.73グラム
※プルーフ仕上げ・証明書付き
※数量限定につき先着順で販売

贈答用ケース入り

●日本における注文受け付けは、ライオンズクラブ国際協会日本事務所がクラブ・地区単位で先着順で行っており、完売次第終了する。各地区キャビネットからクラブへ配布された発注書を使い、EメールまたはFAXで注文されたい。
【注文・問い合わせ先】ライオンズクラブ国際協会日本事務所
TEL 03-3494-2931　FAX 03-3494-2933
Eメール lcijapan@amber.plala.or.jp

■解散クラブ
2月＝新潟エアポート

## 訃報

■元国際会長
ライオンジャン・ベアール（フランス・サンアドレス）
2000-01年度国際会長を務めたライオンベアールが2016年10月2日死去した。享年87。「クオリティー：将来への鍵」をテーマに、00年6月のホノルル国際大会で就任。2000年代最初の会長として、若い会員だけで構成するニューセンチュリー・ライオンズクラブや少人数で発足出来るクラブ支部、オンライン・リーダーシップ研修を開始し、革新的、進歩的な取り組みを推進した。

■元国際役員
ライオン柴利夫（栃木県・真岡）
1月22日死去。87歳。05年度333-B地区ガバナー。献眼。

■献眼者
10月＝ライオン倉本卓爾（広島あさひ）
1月＝ライオン岡田修二（愛知県・西尾）
◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

# TOUCHSTONE STORIES　試金石ストーリー 14

WHERE THERE'S A NEED THERE'S A LION
SINCE 1917
100

ライオンズの100年の歴史と奉仕活動の足跡を伝え、その真価を物語るストーリーの数々を紹介します。
写真とテキストは100周年ウェブサイト（lions100.lionsclubs.org）でも閲覧出来ます。

## 視力ファースト・キャンペーン

「新たな事業には常に冒険が伴うものであり、ライオンズが失明者に奉仕する方法は、常に世界で初めての試みです」

これは1927年、ヘレン・ケラーがライオンズクラブ国際協会に盲人の騎士となるよう求めてからちょうど2年後に述べた言葉で、彼女の行動への呼び掛けにライオンズが応えていたことの証しです。しかし、60年以上経ってからも多くの仕事が残されており、ライオンズが更なる新事業に乗り出す時が来ていました。

80年代後半には、世界中で3800万人の人々が失明に苦しんでいました。専門家の予測によれば、歯止めを掛けなければその数は次世代までに2倍を超え、8千万人に達する恐れがありました。この暗い状況にも、一筋の希望の光がありました。失明に至る全症例の8割は予防、治療、回復さえ可能なものと推定され、視覚障害者の約9割が暮らす発展途上国で進歩を妨げていたのは、重大ながらも克服出来る課題でした。事態は切迫していたものの、解決出来ないわけではなかったのです。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）の理事会は、91年6月のオーストラリア・ブリスベーンでの会議で正式に視力ファースト・キャンペーンを開始しました。それはLCIF史上最も意欲的で大規模な資金獲得運動となりました。

キャンペーンの目標は94年6月までに1億3千万ドルを集めることで、それを各地のライオンズが行う事業に交付金として提供し、あらゆる形での失明を克服しようとするものでした。ライオンズはその点を考慮して、容易に回復・治療出来る病に対応するプログラムを構築し、発展途上国の人々に直接実益をもたらすことを重視しました。一つの例は治療施設への交通手段を提供するために生まれたプログラムで、地元ボランティアが医療当局を支援し、患者が眼科病院に足を運べるよう手を貸しました。失明根絶を目指す視力ファーストには強力なパートナーが集まりました。国際失明予防協会、WHO、カーター・センターなど数々の政府機関や非政府組織がライオンズの取り組みを支援し、白内障だけでなく糖尿病網膜症、トラコーマ、オンコセルカ（河川失明）症と闘いました。

視力ファーストによるマダガスカルでの白内障診療

3年にわたるキャンペーンで不断の努力を続けた結果、世界中のライオンズが集めた資金は94年4月14日に総額1億3033万5734ドルに達して目標を超え、94年7月1日には1億4千万ドルを上回ります。これらの資金はその後10年にわたり、発展途上国の全域で無数のプログラムや事業に着手し、支援するために役立てられました。

2005年12月までには、獲得された1億8200万ドルの資金によって89カ国で758件の事業が行われました。207の眼科病院の建設・拡張、河川失明症患者6500万人の治療、眼科医療専門家8万3500人の教育などの事業に加えて、小児失明と闘う世界初の取り組みも開始されました。ライオンズが出資した白内障手術によっても、約460万人の視力が回復されています。

# LCIF FILE

LCIF Development Update

## ■LCIF献金現況報告

献金額単位：ドル　　2017年1月31日現在

| 地区 | 献金額 | 1人当たり献金額 | 1人当たり前年度献金額 | MJF口数 | クラブ参加率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 330-A | 365,895 | 79.1 | 38 | 285 | 53.2% |
| 330-B | 444,951 | 109.8 | 118 | 292 | 88.6% |
| 330-C | 134,105 | 66.9 | 51 | 86 | 87.1% |
| **330複合** | **944,951** | **88.4** | **71** | **663** | **72.6%** |
| 331-A | 216,466 | 93.6 | 121 | 164 | 79.5% |
| 331-B | 73,830 | 32.5 | 56 | 48 | 56.5% |
| 331-C | 69,289 | 43.2 | 56 | 46 | 58.8% |
| **331複合** | **359,585** | **58.1** | **80** | **258** | **65.1%** |
| 332-A | 90,015 | 50.5 | 33 | 65 | 76.2% |
| 332-B | 72,333 | 46.1 | 70 | 42 | 86.8% |
| 332-C | 120,924 | 87.3 | 79 | 103 | 80.6% |
| 332-D | 144,858 | 71.9 | 104 | 127 | 80.6% |
| 332-E | 54,055 | 31.9 | 41 | 44 | 55.4% |
| 332-F | 39,609 | 37.1 | 59 | 27 | 38.6% |
| **332複合** | **521,795** | **54.9** | **62** | **408** | **71.5%** |
| 333-A | 158,407 | 61.3 | 50 | 118 | 79.7% |
| 333-B | 81,023 | 70.6 | 92 | 69 | 77.1% |
| 333-C | 137,897 | 46.1 | 78 | 111 | 52.2% |
| 333-D | 118,721 | 67.4 | 109 | 94 | 77.8% |
| 333-E | 226,038 | 76.8 | 85 | 191 | 69.5% |
| **333複合** | **722,086** | **63.2** | **80** | **583** | **67.6%** |
| 334-A | 966,158 | 213.3 | 283 | 935 | 85.8% |
| 334-B | 239,710 | 77.5 | 89 | 209 | 70.9% |
| 334-C | 189,181 | 64.0 | 97 | 157 | 73.8% |
| 334-D | 400,521 | 104.8 | 97 | 355 | 85.7% |
| 334-E | 132,360 | 70.4 | 124 | 123 | 67.3% |
| **334複合** | **1,927,930** | **118.4** | **150** | **1,779** | **78.6%** |
| 335-A | 79,218 | 41.1 | 60 | 62 | 59.3% |
| 335-B | 553,762 | 108.1 | 120 | 459 | 88.8% |
| 335-C | 274,301 | 74.1 | 103 | 203 | 87.0% |
| 335-D | 92,244 | 53.8 | 120 | 72 | 98.4% |
| **335複合** | **999,525** | **80.1** | **105** | **796** | **84.1%** |
| 336-A | 325,847 | 63.7 | 63 | 259 | 88.4% |
| 336-B | 126,436 | 44.1 | 66 | 43 | 56.4% |
| 336-C | 200,266 | 64.1 | 62 | 148 | 81.3% |
| 336-D | 105,709 | 35.0 | 69 | 53 | 87.1% |
| **336複合** | **758,259** | **53.7** | **64** | **503** | **79.5%** |
| 337-A | 254,050 | 59.0 | 115 | 203 | 62.9% |
| 337-B | 142,145 | 64.7 | 60 | 110 | 68.1% |
| 337-C | 206,598 | 75.5 | 124 | 156 | 71.3% |
| 337-D | 62,449 | 28.1 | 55 | 47 | 43.4% |
| 337-E | 56,475 | 36.5 | 55 | 43 | 56.9% |
| **337複合** | **721,717** | **55.5** | **90** | **559** | **60.9%** |
| **全国** | **6,955,847** | **74.2** | **91.6** | **5,549** | **73.2%** |

## LCIFセミナーで必ず伝えるストーリー

２０１５年ノーベル医学生理学賞に輝いた大村智博士はイベルメクチンを開発し、アフリカや中南米に多いオンコセルカ症の治療法確立に貢献、約２億５千万人を失明から救いました。その治療薬の資金提供及び薬を配布する地域ボランティア育成を積極的に支援してきたのがライオンズクラブです。ライオンズクラブ国際財団（ＬＣＩＦ）は１９８７年から今日まで約３３００万ドルの資金提供を行っております。

ＬＣＩＦはライオンズクラブの事業部門ですが、皆さんが国際協会の会員として納めている国際会費からの流用はなく、原資は皆さんからの献金で成り立っております。頂戴した献金は厳格なルールをもって、災害復旧あるいは失明予防・回復などの大きな事業を必要としているライオンズクラブへ交付金として拠出され、献金は運営費には一切使用されません。

１月のＬＣＩＦ理事会での承認事業は次の通りです。331・B地区のアイバンク機材支援に１万１７５８ドル、333・E地区のフィリピン小学校舎増築に４万３千ドル、334・A地区のタイ病院透析機具に３万ドル、334・A地区の小牧ワイナリー障害者就労支援に１万５９４０ドル、334・D地区のアイバンク機器に１万２８２５ドル、335・B地区の献血補助車両に１万５１３３ドルです。

昨今大災害が多発し献金額より交付金額の方が多くなっており、ＬＣＩＦは日本の皆さんの献金を頼りに致しております。ＬＣＩＦに対する更なるご理解とご協力をお願い致します。

（333複合地区ＬＣＩＦコーディネーター／大祢廣伸）

●千葉県・飯岡ライオンズクラブ

## 津波被害伝えるモニュメント

東日本大震災は東北の太平洋沿岸を中心に未曽有の被害をもたらしたが、震源から遠く離れた千葉県でも、大津波に襲われた所がある。九十九里浜の北端にある旭市で、震災により14人の方が亡くなり、2人が行方不明となっている。

海岸沿いの飯岡地区に津波の第一波が到達したのは、地震発生から1時間後だった。この時、一部で浸水はあったものの、さほど大きな津波ではなく、住民たちはほっと安心した。が、地震から2時間40分が経った午後5時26分、高さ7・6メートルの大津波が飯岡を襲った。陸に当たって押し戻された第二波が、飯岡の沖合で第三波と重なり、増幅されたのだ。

その瞬間、車で海岸沿いの県道を走っていた飯岡ライオンズクラブの向後充は、真っ黒い水の塊が護岸を越え、道路に迫ってくるのを見た。車から出て逃げようとしたが、津波に足をすくわれ、あっという間に流された。必死で建物にしがみつき、何とかこらえたが、その時のことはほとんど記憶がないという。

向後が津波につかまった場所の近くに、飯岡ライオンズクラブ（宮嶋正也会長／33人）の活動拠点の一つ、飯岡ライオンズ公園がある。

2013年2月、この公園に「伝えつなぐ大津波」と刻んだ津波モニュメントが完成した。大津波の被災経験を風化させず、教訓として後世に残すことを目的に、飯岡ライオンズクラブが発案し、333-C地区内のライオンズを始め、台湾の300-B1地区、東京江戸川ライオンズクラブなどの支援を受けて建立したもの。碑の横には被災状況を説明した「旭市飯岡津波被災の碑」を併置すると共に、市内小中学生の津波被災時の体験文を中心に被災関連の記録や文書を収めたタイムカプセルも埋設した。タイムカプセルは、子どもたちが大人になる30年後に開封する予定で、クラブでは「津波のことを語り継いでほしい」と願っている。

公園前には、震災の記憶を展示した旭市防災資料館がある。もともとは国民宿舎だった建物で、地域住民にも親しまれていたが、津波の被害を受け休業。一時は解体も検討されたが、床に大きな亀裂が走った元食堂を改装し、防災資料館として14年7月に開館した。館内には旭市や市民が撮影した数多くの写真や映像などが展示され、地震や津波による被害の状況、避難生活など震災発生直後からの市内の様子が説明されている。またここは津波からの避難ビルとして、屋上まで非常階段が設けられている。飯岡地区にはこうした津波避難施設が数箇所設置され、震災以降、津波から命を守る対策が講じられている。（取材／鈴木秀晃）

旭市防災資料館には最大津波が押し寄せた5時26分で止まったままの「忘れじの時計」も展示されている

3.11リレー連載㉕

# 震災にあたって

守部幸一
（千葉県・飯岡ライオンズクラブ）

もりべ・こういち　1949年旭市生まれ。飯岡地区社会福祉協議会会長。2004年10月入会。今年度教育YCE委員長、飯岡ライオンズクラブ事務局長。

2011年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源地とする国内観測史上最大の地震が発生し、これに伴う大津波が旭・飯岡地区、飯岡漁港を数回にわたり襲いました。特に飯岡地区海岸一帯は甚大な被害となり、町の形状と景観は大きく変わってしまいました。震災により旭市では死者14人、行方不明者2人、住家被害3696世帯、漁船被害129隻に及びました。改めて、東日本大震災により被災された皆様にお見舞い申し上げますと共に、犠牲となられた14人の方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。当クラブでも会員33人のうち17人が、津波により家を失うなど大きな被害を受けました。中には自宅、工場とも全壊した会員もおります。今は、会員全員が一日も早い復興、再開を心から願っているところです。

震災4日後の3月15日には、竹下徳永地区ガバナーが、真っ先に駆け付けてくださいました。当時の宮内保会長案内の下、被災した会員のお見舞いに訪れ、一人ひとりに励ましの言葉を掛けられ、会員を勇気付けてくれました。その後も自ら足を運び、クラブ・メンバーの被災状況を一軒ずつ確認し、被災したメンバーを物心両面で励ましてくれました。

また333-C地区は震災後すぐに「災害支援センター」を立ち上げました。これに呼応するように各地のライオンズクラブも当地域を含めた被災地に救援物資や義援金を届けるなど、支援に立ち上がりました。あるクラブは、総勢50人からなるボランティアの片付け隊を編成し、3月19、20日の両日、飯岡地区で散乱したがれきなどの片付けを行ってくれました。

3月21日には、近隣のライオンズクラブから特産の焼き芋600本余りが届けられ、避難所である飯岡小学校、保健センターに持参しました。この日は冷たい雨が降り注ぎ、3月下旬とはいえ避難所はまだ寒く、温かい焼き芋を配ると、皆さん大変喜んでくれました。

3月16日、旭市社会福祉協議会が、災害ボランティアセンターを立ち上げました。そこで、私ども飯岡ライオンズクラブでは、被災を免れたメンバーが交代でセンターに詰め、ボランティアの受け付けや、被災地への送迎、飲み物の提供などを行いました。この活動は3月31日まで行い、期間中、7608人のボランティアが参加されたとのことです。このように、全国各地から大勢のボランティアが駆け付けてくださったことで、被災現場の片付けが早く進み、3月末には復旧の礎がほぼ整えられました。

飯岡地区には津波避難施設が数箇所設置されている

更に当クラブでは4月に入り、被災を免れたメンバーから義援金を募ることを決定し、集まった義援金を被災された方々へのお見舞いとして5月24日に旭市へ届けました。また6月21日には、津波被害を受けた飯岡中学校へ英語教材一式を寄贈するなどの活動も行いました。

現在、国、県、旭市など関係者が一丸となって、この未曾有の災害からの復旧作業に当たっており、徐々にではありますが、街は復興に向けて歩み始めております。私自身、各地のライオンズクラブからのさまざまな支援活動に立ち会うと共に、遠路、手弁当で駆け付けてくださったボランティアの皆さんが、献身的に活動される姿を拝見して、今後のライオンズ活動や、地域での奉仕を考える上で見習うべきところがたくさんありました。

最後に、この度の震災に際しましては、多くのライオンズクラブを始め関係各方面から心温まるお見舞い並びにご支援を頂き、厚くお礼申し上げます。

# 獅子吼

## 子どもたちの笑顔のために

橘　勝也（神奈川県・横浜都筑）

横浜に移り住み約15年、私は町のために未来のためにと日々忙しくやってきました。結婚し子どもを授かり、子どもから教わることも多かったと記憶しています。

ある時、神奈川県の広報紙で、独立行政法人こども医療センターを知りました。聞いてみたところ、横浜市にある県内唯一の子ども専門の総合医療機関とのことで、病院に連絡してみました。そこで430床ものベット数があり、日夜、医師、看護師、スタッフが懸命に治療をしていること、また生まれてから一歩も病院を出たことのない子どもたちがいることを知りました。

病院に詳しい話を聞いたところ、一回見学に来てくださいとの話を頂き、ぜひにと伺いました。

病院内の廊下では子どもたちが、歩くことの出来ない子を車椅子に乗せて車椅子の競争をしていました。ビックリしている私に病院の総長はこうおっしゃいました。

「歩けないだけで目も口も同じ、笑顔がここにあります。私の立場からすれば怒られてしまうかもしれませんが、私はこの笑顔に救われています」

私は目頭が熱くなりました。

車椅子は、当然のように壊れていきます。そこでぜひ、車椅子を受け取って頂きたいと申し出ました。

後日、車椅子を届けに行き、もう一度子どもたちに会いたいと病棟へ伺うと、笑顔の子どもたちがいました。その時、一人の男の子が私に、

「おじさん、誰？」

と話し掛けてきました。季節は桜の咲く4月でした。私が、

「季節はずれのサンタかな？」

と答えると、元気な笑顔で、

「おじさん、ありがとう」

と言ってくれました。

時は過ぎ、クリスマスの時期が来ました。あの男の子にまた会いたくて、子どもたちの笑顔をもらいたくて、今度は全員におもちゃをプレゼントしようと持参しました。あの時の男の子は、私に笑顔と勇気をたくさんくれました。

お正月には、クリスマスプレゼントを受け取ってくれた女の子から年賀状を頂きました。身体が不自由なのにもかかわらず、一生懸命に書いてくれたことが分かる年賀状でした。今でも私の会社に飾らせてもらっています。

継続的に車椅子を持参していましたが、寝たきりの子どもたちには何が出来るだろうと、病棟を何度か拝見しました。病室では部屋を明るくするために、窓ガラスを多用されていました。そんな時、知人から窓ガラスに書いてすぐに消せる「キットパス」という筆記具があることを教わりました。

早速病院に持参し、子どもたちに1階の通路の窓ガラスにいっぱい絵を描いてもらい、寝たきりの子どもたちの病室の窓ガラスには、美術大学の学生さんたちに動物の絵を描いてもらいました。

その後、病室を訪ねる機会を頂いた時、寝たきりの男の子と会いました。その子の目が輝いて、動けないのにもかかわらず私に手を振ってくれました。後に看護師の方が

「あの子、窓ガラスに絵を描いてもらってから笑顔になりました。子どもに代わって言わせてください。ありがとう、本当にありがとう」

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

と涙ながらに話されました。
子どもたちが早く良くなって、元気に皆と学校に通えるようになってほしい。子どもたちの笑顔のために、これからも小さなことですが続けていきたいと思っています。
ありがとう。笑顔の似合う子どもたちへ。
（クラブ幹事／14年入会／54歳）

# 子どもたちの成長を見守る

見谷　玲子（北海道・札幌コスミックシニア）

「おいしいミートソースが出来たよ！」
今年度も10月1日、児童養護施設「札幌育児園」の高学年園生を対象にした調理実習を、札幌中央卸市場クッキングスタジオで実施しました。
育児園からは中学生9人、高校生7人、短大生1人、専門学校生1人と、施設長始め職員8人が参加。年々参加者が増え、過去最高の人数になりました。
当クラブでは結成翌年の2004年から、札幌市にある円山動物園に同園の園児を招待する継続アクティビティを実施しています。初回開催時に2、3歳だった子が、今や中学生や高校生に成長。今回の調理実習参加者の半数がその頃からのお付き合いで、成長した姿を見ることが出来、継続することの大切さを学んでいます。
この日のメニューは、ミートソース、ダイコンとキュウリのサラダ、簡単コーンスープです。子どもたちが自立した時に自分で料理しやすいメニューをと考えました。例会で、レシピ、食材、手順の確認、買い出し担当等を決めました。今ではなんとかスムーズにいくようになりましたが、始めた頃は前例の無いことでしたので大変。試行錯誤しながら回を重ね、今のスタイルとなりました。
育児園が園生・職員混成チームを7班に編成。当クラブ・メンバーとその友達にも参加してもらい、各班に2人を配置しました。ミートソースでは、タマネギ、ニンジン、シイタケをみじん切りにし、ひき肉と炒めます。サラダに使うダイコンとキュウリは千切りです。包丁がうまく使えずに、危なっかしい手つきで悪戦苦闘している子もいました。3品とも味付けは園生たち。基本のレシピはありますが、味見をしながら「しょうゆが足りない」「しょっぱくなっちゃった」と話し合いながら、2時間ほどで完成させました。
食事の前に当クラブの高橋久美子会長が
「『頂きます』の意味は、食事に携わってくれた方への感謝の心。また肉や魚、野菜、果実にも命があり、その命を頂いて私たちは生命を維持しているという食材への感謝の、二つの意味があります」
と話しました。それから皆で調理台を囲み、自分たちの作品の出来栄えを

確認し、楽しく、和やかに完食しました。
　デザートはアイスクリームです。フルーツ、チョコチップ、イチゴシロップ等を自由にトッピング。何度もおかわりし、満足感を味わいました。
　当クラブが結成され、育児園との交流を望み訪問した際に、千葉徹施設長は「線香花火のように一回きりの交流なら望みません。継続してやって頂きたいと思います」とおっしゃいました。以来、歴代の会長やメンバーの努力により13年間継続しております。
　調理実習は千葉施設長からの要望で始まりました。「園児は19歳になると育児園を出なければなりません。自立した時に自炊出来るようになってほしい。家庭で親と一緒に料理を作る雰囲気を味わってもらいたい」。その要望を受け、11年から取り組んでいます。
　昨年9月は、3日に幼い園児を円山動物園に招待、11日にはサッポロシニアライオンズ（クラブ）と共催で農園収穫祭、25日は育児園祭で揚げ物等のお手伝い。10月1日には調理実習と、1カ月の間に4回も交流することが出来た「育児園月間」となり、園児から癒やしをもらいました。これらは女性クラブならではのアクティビティだと思います。
　動物園で手をつないで一緒に歩いた子が、もう高校生になりました。たくましく成長する姿を見て、我が孫のことのようにうれしく思っています。
（クラブPR委員長／03年入会）

## 震災の戒め

原　周二（茨城県・下館シニア）

　昨年4月には熊本地震が発生し、大変な被害をもたらした。11月には福島沖に連続して地震が起き津波も発生した。またこのところは我が筑西市を含む茨城県南西部を震源とする地震も多く、体感から推測した震度がピタリと当たるようになってしまった。
　東日本大震災の時、私自身や当クラブがどう対処したかを振り返り、今後の戒めにしようと考えた。津波被害を受けた方々に比べればささいなものだが、それでも当市の震度は6強、これまでに体験したことのない揺れであった。周囲では大谷石塀やブロック塀が崩れている以外、家屋の倒壊などは無かった。個人的にいちばん困ったのは停電で、テレビも見られず携帯ラジオも無く、地震発生から2日間、全体像が全く分からなかった。電気が復旧し、テレビで壮絶な津波の有り様を見た時は、文字通り驚愕した。第2は断水である。飲み水、食事、トイレ用の水が無く、半日掛けて給水車に並んだ。第3は停電により暖房機能が失われたことで、布団に入るしか方法が無かった。
　一方助かったことは、屋根瓦以外の家屋の被害が無かったことである。もう一つは、料理用燃料にプロパンガスを使用していたこと。停電中も温かいご飯が食べられた。経済的事情からオール電化に出来なかったおかげで、ひもじい思いをせずに済んだ。
　当クラブにとっても予想しない事態に陥った。全国には50ほどのシニア・ライオンズクラブがあり、その全国大会を2年ごとに各地で開催している。第5回大会は当筑西市の予定で、私がクラブ会長だった年度であり、大会幹事も仰せつかっていた。333複合地区内の4シニアクラブ共催とはいえ、開催地にある当クラブが主体となる。諸般

の準備を済ませ、5月開催を目前に控えた時期であった。

電気が復旧すると、福島第一原発の容易ならざる事態が伝わってきた。遠くのシニアクラブから参加見合わせの連絡もあった。会場予定のホールに行ってみると、支配人が疲れ切った表情で立っていた。聞けば、落下したつり天井の片付けがやっと終わったばかりで、建設業者も復旧の予定が見通せないということだった。原発の水素爆発が発生した状況も踏まえると、大会延期を決断せざるを得なかった。遠方の方々にとっては福島と茨城は一衣帯水と見なされるだろうと判断したからである。各クラブ及び関係者に直ちに延期の通知をし、入金された参加費は全額返金した。

結果として、延期の判断は妥当であった。地域の動脈であるJR東北線と常磐線を結ぶ水戸線が1カ月にわたり運休し、ガソリンスタンドは補給が絶たれ閉店状態が続いた。建物に関しては、住宅被害は少なかったが、空間の広い大広間などでつり天井が落下する被害が軒並み発生していたことが後日分かってきた。

大会を延期し、秋のクラブ・バザーに出店する農作物栽培に精を出していた7月末、私は突然激しい腰痛に見舞われ、帯状疱疹であることが分かった。夏バテと大会延期の落胆が重なったのだろうか。1カ月ほどで動けるようになると、延期している大会について秋には方針を出す必要に迫られた。参加者の放射能に対する不安解消が第一と考え、当市の放射線量が全く問題ないこと及び全国各地の値も調べて資料を作り、会場ホールの修復完了を確認して、1年遅れの翌年5月開催をクラブ例会に諮った。

正直なところ、地震による突然の延期は、自分も含め会員を意気消沈させた。目的に向け物事を進めるのに重要なのは人の心、雰囲気作りであり、これを再び醸成していくのに誰もが倍のエネルギーを要したように思う。震災を踏まえ、大会も様相を変えた。「震災支援の絆の輪を広げよう」がテーマに

## 復興屋台村 **気仙沼横丁**

震災で真っ暗になった街に灯りをともし、元気を取り戻そうと、LCIF東日本大震災指定交付金を受けスタートした屋台村プロジェクト。その先陣を切って2011年11月にオープンした気仙沼横丁が、3月20日をもって閉村致しました。これまでご支援くださった国内外の多くの皆様に心よりの御礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

https://www.facebook.com/fukkoyatai

# 獅子吼

加わり、地元観光の予定を福島の被害現地視察に変更し、参加者からのカンパによる見舞金が贈呈された。同大会は来賓の茨城県知事、筑西市長、333複合地区議長、333-C、E地区ガバナーを始め、200人もの参加者を迎え無事終了した。

震災による教訓をまとめてみた。個人の生活においては

1　プロパンガス施設の存続：停電でも炊飯が可能。更に備えとして七輪と炭を購入。剪定で発生した木くずを燃料化すべく1年間保管

2　雨水の貯水：断水に備え270リットルの貯水タンクを手製で設置

3　携帯ラジオと昔ながらの石油コンロ、携帯電話用主導充電器購入

公式行事での教訓は

1　速やかな延期対策の実施：家庭での対応に忙しくとも、広く社会全体の情報を収集

2　再開時期は人心が落ち着いた早い段階：デマ風評は客観的指標で判断。人の心と経済面から地域活性化が急務

日本は世界の地震の2割が発生すると言われる地震大国だ。地震は不可避だが対策を取ることは出来る。大規模な対策は個人でも公共でも予算的に限界がある。減災という考えに沿った個人の心掛けが必要だと肝に銘じた。

（03年入会／73歳）

## 剪定の基本と心得

成田　行祥（青森県・平賀）

私はリンゴづくりにおける剪定を専門にしている。リンゴは皆さんにとって身近な果物だと思うが、お手元に届く前にはこんな努力があることをご紹介したい。

生産を持続出来る木を作るのが剪定の基本だと思う。いかに木を健康に保ち、健康なリンゴをならせるかである。リンゴ生産に携わる人がいる限り、剪定も続けていかないといけない。

一時的に良い物を採るというのであれば、いくらでも方法はある。また枝はいつでも伸ばせるし、いつでも縮められる。しかし剪定の基本は木の形ではない。形にとらわれると本当の仕事が出来ない。立派な形をしていても、葉だけが目立つ木では生産的ではない。フワフワした格好の悪い木が良い仕事をしているものだ。

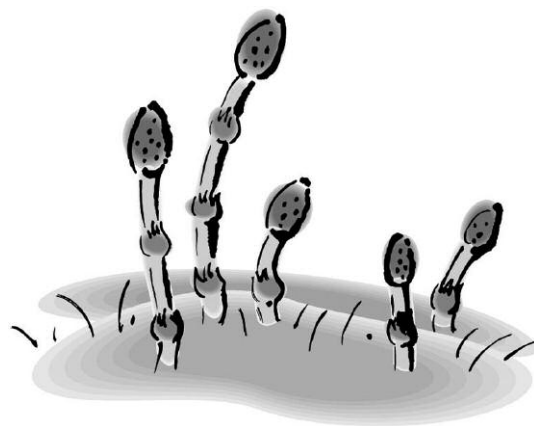
木に向かう時に大切なのは、リンゴの木になりきるということ。その木が何を欲しているか、なぜその木のリンゴが小さいのか、青いのか、その呼吸を見抜かないといけない。その木が必要としていることを我々が手伝ってやらないといけない。

木に無理をさせず八分目で仕事をさせる。そうすれば木は疲れないし、仕事も順調にいく。疲れきった木での作業は一番苦しい。枝の切りようが無くなってしまう。

剪定は、10アールを少なくとも2日掛けてやるのが良い。そのくらいの時間を掛けないと駄目だ。国光の成樹であれば午前中に3本やれば精一杯である。

皆さんは剪定を面倒だと考えるかもしれないが、何も面倒なことはない。リンゴの木と二人きりで、この木をどうしなければならないか、リンゴの木を案じ、対話する。無理にリンゴをならせようとすれば木に負担を掛けることになる。自然になったのが良いリンゴ、木に仕事ばかりさせようとすれば

駄目になる。

長柄のノコギリは駄目だと思う。長柄を使うとリンゴの木が見えない、下から眺めているだけになり、木の病気が見えない。病気の枝を切らずにおけば病気がどんどん増えていってしまう。

摘果というのも剪定の延長で、花芽が少ない枝では実をならせ、花芽が多い時は強く摘果する。

地域によってリンゴの木の形が違うことがある。枝の配置をうまく取る必要があるから、形が違ってくる。また地域によって土壌が違うから木の大きさも違い、樹間距離も変わる。しかし整枝にそれらの違いが出来てくることはあっても、剪定の意味は同じである。目標とする果実を生産するための枝作りは木の整理・調整によるのだから、剪定の基本は変わらない。我々にとっては整枝ではなく剪定が大事なのである。

わい化栽培（木の高さを抑える手法）も剪定が大事。私が習ってきた剪定は、国光・紅玉の流れを汲んでいて、ふじにも合うものだ。剪定をわきまえないわい化栽培は、不成功に終わると私は思う。

これからは段々人手が足りなくなる。薬は買えても人手が借りられなくなる。だから省力化の方向に進まなければならないだろう。わい化栽培も省力を狙いとして反収（たんしゅう）を上げ、生産性を維持するのが主眼となっている。

わい化栽培の成功には土壌改良が必要だというが、それを配慮するのであれば、普通の木（マルバ台木に接いだ木）でももう2割は収量を増やせるだろう。それでは、わい化栽培は必要無いのではということにもなる。

その上、近年強大化している雪害とか風害の対策も考えなければならないし、成功していると言われる実例についても、労働時間・経費などを詳しく調べ、もっと実績を積んで普及していかねばならない。

（クラブ会員委員長／93年入会／87歳）

Where's Lions?
ライオンズを探せ！
@
埼玉県・草加

# 日光街道第2の宿・草加と「おくのほそ道」

　松尾芭蕉が曽良と共に「おくのほそ道」へと旅立ったのは元禄2（1689）年3月27日のこと。深川から隅田川をのぼり、千住で陸にあがった芭蕉は「行く春や鳥啼魚の目は泪」と詠み日光街道を北へ向かった。
　そして芭蕉は次の章で「其日漸早加と云宿にたどり着にけり」と書いている。初日は日光街道第2の宿・早加（草加）泊まりのように読み取れる。が、曽良の随行日記には「廿七日夜 カスカベニ泊ル」とある。千住から草加は2里8町（約9キロ）、草加宿から次の越ケ谷宿までが1里28町（約7キロ）、越ケ谷宿から粕壁宿は2里28町（約11キロ）だ。このあたり、千住から粕壁（春日部）まで27キロを元気はつらつ一気に歩いたのでは、旅立ちの章で「前途三千里のおもひ胸にふさがりて」「離別の泪」をそそぎ、「行く春や鳥啼魚の目は泪」と詠んだ句が霞んでしまうと考え、脚色したのではないかと解釈されている。

　それはさておき、東武スカイツリーライン松原団地駅から歩いて5分、草加松原遊歩道の百代橋北側に、この「おくのほそ道」草加の章段を刻した「松尾芭蕉文学碑」が二つある（写真上）。一つは書家・木村笛風氏による書、もう一つは活字で刻まれている。実はどちらも、ライオンズが建立したもの。書の方は1991年4月7日に草加市で開催された330-C地区年次大会記念アクティビティとして建立された高さ2メートル、幅1・2メートルの石碑で、併せて横に松の木が植樹されている。活字の方はその7年後に、草加ライオンズクラブが30周年記念事業として設置した。
　二つの文学碑がある草加松原遊歩道は旧日光街道の松並木で、綾瀬川に沿ってゆったりとした石畳の散歩道が整備されている。「日本の道100選」や「利根川百景」の他、「おくのほそ道の風景地」として国の名勝にも指定されている。

■草加ライオンズクラブ（石井隆義会長／19人）＝1968年6月13日結成／スポンサーは隣接する東京・足立区の東京白鴎ライオンズクラブで、当時は東京都と埼玉県で一つの地区を形成しており、結成時は東京と埼玉のメンバーが半数ずつ在籍していたという。最近のアクティビティはNPO法人クローバーや三郷特別支援学校、児童福祉施設ゆうゆう館に通う子どもたちとの交流事業など、心身障害児の支援に力を入れる。この他、献血や薬物乱用防止教室、青少年野球大会とバレーボール大会への助成等を実施。毎年11月の草加市ふささら祭りでモツ煮込み、ポップコーン、生ビールを販売する他、チャリティーゴルフ大会を主催し、アクティビティ資金獲得につなげている。

取材／鈴木秀晃

## 表紙の背景

# 弘前城追手門

### 青森県弘前市

桜の名所として知られる弘前城。その正門が追手門だ。１層目の屋根を高めにした2層の櫓門で、全体を簡素な素木造りとしていることなど、戦国時代の古い形式を残すものとして、全国の城門の中でも注目されている。追手門周辺の濠や土塁もよく保存・整備されており、春には濠沿いに植えられた桜の花が豪華に咲き誇る。しかも弘前城の場合、散った桜の花びらが濠を埋め尽くす、いわゆる「花筏」がまた見事で、あえて桜が散る時期を狙って訪れる人も大勢いる。

弘前城の桜は、花自体が大きく、豪華な点が特徴だと言われる。ソメイヨシノは通常、一つの房に4～5個の花を付けるが、弘前城のソメイヨシノは、それよりも多く花を付けており、中には七つの花を咲かせている房もある。また一般にソメイヨシノの寿命は60～80年と言われるが、弘前城には樹齢１００年を超える古木が３００本以上あるそうだ。

これらの桜を支えているのは、「弘前方式」と呼ばれる桜の管理技術だとされる。桜は枝を切ると、そこから腐りやすくなるので切らない方が良いとされ、よく「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」と言われる。が、弘前公園管理事務所では、桜の枝を切るのだという。これは全国有数のリンゴ産地・弘前ならではの発想で、病気や害虫に弱いソメイヨシノを、リンゴ栽培を応用した適正な剪定によって管理しているのだ。

桜の時期には２００万人もの観光客が訪れると言われる弘前城。今年もまた、ゴージャスな花が見られることだろう。

※弘前駅前から弘前城追手門までは約2キロ。駅前から土手町循環の１００円バスがあり、最寄りの市役所前までは約10分。

ふるさと探訪

福岡県八女市　取材／河村智子　写真／田中勝明

# 工芸の町八女を支えてきた職人たちの手仕事

# 手仕事の結集で生まれた八女提灯

その土地の風土に育まれた材料を用い、職人の手仕事によって作られてきた工芸。八女には今も数多くの手工芸が残っている。時代の変化で地元産の材を求めることこそ難しくなったが、職人の技術は健在だ。

八女の数ある工芸の中でも歴史の古いのが手すき和紙だ。400年前に諸国を行脚した日蓮宗の僧日源が製法を伝えたとされる。温暖な気候に恵まれたこの地では、豊富にあった竹や木を材料とする手仕事が発達。それらの技術を結集させ、江戸時代後期には提灯（ちょうちん）と仏壇の製造が始まった。木工や漆塗り、蒔絵（まきえ）など製造技術に共通する部分が多く、またどちらも仏事にまつわる工芸として共に発展し、八女提灯と八女福島仏壇はそれぞれ国の伝統的工芸品の指定を受けている。

八女は盆提灯を中心に提灯の生産量日本一で、現在は十数社が製造を手掛ける。㈱井上為吉商店（井上恵二代表取締役／八女ライオンズクラブ）は、八女を始め九州地方で主流の丸型や筒型の他、地方によって特色のある形の盆提灯や、祭礼用の大型のものなどさまざまな提灯を製作し、全国へ卸している。

昔から八女の提灯作りを担ってきたのは、内職による手仕事だ。灯の入る火袋の部分では、張り型に刻まれた溝に沿ってらせん状にひごを巻くひご巻きから、和紙や絹を張り付けるまでを一人が行う。井上為吉商店では、特殊な物を除きこの作業は70軒の内職が担っている。ひごはかつては竹ひごだったが、今は針金にビニールを巻いてその上に紙を張った鉄線が主に使われる。また、草花や風景など繊細な絵柄が描かれる盆提灯の火袋に張られるのは、和紙ではなく絹布だ。

この道32年になる絵師の塚本泰吉さんは、会社勤めをした後に名人と呼ばれた父から絵付けの基本を教わった。作業をする塚本さんの足下には、描きかけの火袋が10個並んでいる。右手に白い絵の具の筆を持つと、左手で並んだ火袋のうち一つを取り上げて菊の花びらを描き、順々に10個に花びらだけを描いていく。緑色の筆に持ち代えると、今度はキキョウの葉だけ、次は黄色の筆で花芯だけといった具合に、下書き無しでスッスッと筆を動かしていく。こうして同色の部分だけを描くことで筆を持ち変える回数を減らし、早く大量に絵付けしていくのが、八女で用いられる速描（そくびょう）の技法だ。

八女提灯の歴史は1813年頃、

絵付けは下書き無しで、火袋の布の継ぎ目とひごを目処に描く。速描の画法は早く描けるだけでなく、絵柄を同一にそろえやすいと塚本さん　協力／㈱井上為吉商店（Tel.0943-23-5045）

ひごを巻いた張り型は、上下のコマを外すとバラバラになり火袋の中から取り出せる

福島町の荒巻文右衛門が単色で草花を描いた素朴な提灯を売り出したのが始まりとされる。その後、1本の竹ひごをらせん状に巻いて火袋を形づくる技法や、内部が透けて見える薄紙に色とりどりの模様を描く改良が加えられて、「涼み提灯」として広まった。彩り豊かな絵付けをするには手間と費用を要するが、明治になって速描の画法を取り入れたことで、生産量が急激に増加した。

塚本さんが仕事を始めた30年前は生産が追いつかないほどの忙しさで、寝る間を惜しんで日に30個も絵付けしたという。難しいのは数をこなしながら絵柄をそろえて質を保つことだと、塚本さんは話す。

「親父に一番最初に言われたのが、『忙しかけんいうて手え抜くな。忙しか時こそ丁寧に描け』ということ。常に今描いたのより次を上手に描こうと思って描いとります」

そんな職人たちの技と熱意が、伝統の灯を絶やすことなく守っている。

# 八女
YAME

撮影協力／八女伝統工芸館

## 福岡県八女（やめ）市

福岡県の南部に位置し、南は熊本県、東は大分県に接する。中心市街地の福島には江戸時代の始めに城下町が形成され、明治以降は商家町として発展。江戸末期から明治に建てられた居蔵の建物が多数残り、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。手工芸の町、職人の町でもあり、国指定伝統的工芸品の仏壇と提灯を始め、手すき和紙や石燈籠、竹細工、絣など多くの手工芸が受け継がれ、その技術は八女伝統工芸館で見ることが出来る。また八女茶や電照菊の産地としても知られる。北部九州最大規模の岩戸山古墳を始めとする八女古墳群がある。

面積／482・44平方キロ　人口／2万4638人（2017年1月末現在）

【交通アクセス】

市内に鉄道駅はなく、最寄りのJR鹿児島本線羽犬塚（はいぬづか）駅からバス

九州自動車道八女ICから国道442号線を熊本方面へ。福岡空港から高速バス利用で八女インターチェンジまで約50分

## 守り継がれてきた伝統の技

美濃和紙や越前和紙を始め、和紙の産地の多くは川の流れる所にある。和紙の原料となる楮（こうぞ）や三椏（みつまた）、雁皮（がんぴ）の樹皮を川の冷水にさらし、不純物を除くと共に紫外線によって自然漂白するためだ。八女市を流れる矢部川の流域でも、かつては川さらしの風景が冬の風物詩だった。全盛期には流域に2千軒近い工房があったという。現在、八女手すき和紙組合に所属する工房は6軒。その一つ、山口和紙工房で手すきの技を見せてもらった。

八女の手すき和紙の原料は楮。今は八女では栽培されなくなり、県境をはさんだ熊本の農家から主に仕入れている。楮は三椏や雁皮に比べ繊維が長いが、とりわけ九州産の楮は繊維が長いのが特徴だ。他産地の繊維が1センチほどなのに対して1・5〜2センチもある。長い繊維が絡み合うことで破れにくく、荒々しく男性的な紙と評される。障子や提灯、仏壇、表具、傘、膏薬（こうやく）などさまざまな用途の紙が作られ、戦前までは工房ごとに専門が決まっていた。山口和紙工房では提灯紙を専門にすいていたそうだ。

工房の6代目山口俊二さんがこの日すいていたのは、無漂白の楮を使ったかなり厚手の和紙だ。濃い生成色をした素朴な味わいの紙は、酒瓶のラベルになるとのこと。紙の厚さを決めるのは、トロロアオイの根から抽出した粘剤の案配と、長年の経験によって培われた勘だと、山口さんは話す。

「繊維をからませるために、タテの動きだけでなくヨコ揺れも加えます。今は研究が進んで楮の紙が機械でもすけるようになっていますが、違いは1枚の紙に出来る層です。手すきだと3層から4層になりますが、機械では1層だけで、厚さを均一にするのも難しいようです」

すき上がった和紙は蒸気式の乾燥機に乗せ、馬毛の刷毛（はけ）でなで付けて乾燥させる。この作業は山口さんがやるとどうしてもシワが寄ってしまうそうで、奥さんが担当している。

何度か簀桁（すげた）を動かして程良い厚さになったら水を捨てる。この時に半分を捨てて半分を手前に戻すのが「返しぐみ」という八女のすき方。戻る水で表面のゴミを取り除くが、シワが生じやすいので技術が要る　協力／山口和紙工房

続いて訪ねたのは、独楽工房・隈本木工所。日本各地にはその土地ごとにさまざまなこまがある。九州のこまは鉄芯をつけた「けんかごま」。ヒモを使ってこまを回し投げ、ぶつけ合って強さを競い合う。相手のこまを割って手に入れる鉄芯が、子どもたちにとっては勲章だ。取材に同行していた八女ライオンズクラブの国武晃久会長も、強いこまにしようと自分で鉄芯を削ったものだと、少年時代を懐かしんで目を輝かせていた。

隈本木工所は100年前からこま作りを専門にしてきた工房だ。こまの工房は現在では九州で2軒だけになり、博多こまや肥後こまなど九州各地の伝統的なこまの他、さまざまな木製玩具も製作している。

こまに使う木材は堅過ぎず、粘りのあるマテガシ。原料の丸太を製材して1年ほど乾燥させ、ろくろを使って削りだしていく。工房の主の隈本知伸さんの頭を悩ませるのは、材料の入手難と値上がりだ。もともとは地元産の木材を使っていたが、戦後に山林が次々に杉に植え替えられたため、近年は佐賀県産のマテガシを使ってきた。しかしそこも担い手がいなくなり、現在はつてを頼って製材を分けてもらっていると言う。

「こまは子どもが自分で買う玩具ですし、ぶつけ合うけんかごまですから、材料が手に入りにくいからといって高価な物にするわけにはいきません。そのため積木など他の玩具も作りながら、八女和こまは何とか安価に抑えています」

福岡では毎年12月、太宰府天満宮杯和ごま競技大会が開かれる。こま遊びの中で、子どもたちは挑戦することの大切さを学び、競い合いながら社会性を身に付けていく。そんな昔ながらの遊びを復活させようと、2003年に始まった。隈本さんもこま遊びを途絶えさせたくないと、幼い子どもでも簡単に回せる「ラクコマ」や、デザイナーとの共同による現代的なフォルムの美しいこまを生み出している。

博多こまとほぼ同じ形だが中央にとがったヘソがあるのが八女和こまの特徴。彩色の作業は、片手に2本の筆を持って2人が息を合わせて行う。効率良く作業することで単価を低く抑えている
協力／隈本木工所（www.yamegoma.jp　Tel.0943-22-2955）

▼取材協力クラブ

八女ライオンズクラブ（国武晃久会長／94人）＝1957年3月20日結成／スポンサー・久留米ライオンズクラブ／八女市と隣の広川町を奉仕地域とし、青少年健全育成と障がい者支援に重点を置いて活動。青少年育成には日本古来の武道が欠かせないと毎年11月に八女ライオンズクラブ旗争奪少年剣道大会を開き、少年・少女剣士たちが真剣な面持ちで試合に臨む。障がい者支援では、福祉団体、高校生ら市民の参加を得てチャリティー福祉バザーを実施し、今年は共催する八女市身体障害者協会と「福祉の町やめ」を目指す共同宣言を行った。またチャリティー・クリスマスパーティーは、地元高校のボランティア組織による手作りの料理とダンス・歌で、福祉施設の入所者に楽しい時間を過ごしてもらった。

八女福島の白壁の町並み

## 読者から―2月号

**■掲載が励みになる**

クラブ・リポート欄で桑折（こおり）ライオンズクラブのクリスマス・チャリティー・コンサートについて取り上げて頂き、ありがとうございました。メンバーの励みとなりました。

桑折は昔から奥州・羽州街道の分岐点として宿場が栄えていました。また、朝ドラで有名になりました五代友厚ゆかりの平田銀山や、伊達家発祥の地としても有名です。天皇家への献上桃の里でもあります。

当クラブはこの他にも数多くの奉仕活動を行っており、私も最高齢会員として40年間活動してまいりました。もう少しがんばりたいです。

福島県・桑折ライオンズクラブ●宮本一郎

**■今読んでも新鮮に感じる思い**

33回続いている駅伝大会（「SCENE」千葉県・総武中央ライオンズクラブ）について、伝統的な大会の在るべき姿が明解で良い記事だと思った。地域に根ざしていることはもちろん、過去の参加者に箱根駅伝の選手がいることなど、未来への広がりがあるところもすばらしい。例えばスターターなどに箱根出場のOB選手が参加するなどすれば、子どもたちの良い刺激になると思われる。

「もう一度読みたい『あの記事』」は50年近く前の先輩ライオンの思いが今読んでも新鮮に感じられた。これから三役や、キャビネットに出向する方によく読んでもらいたいと思った。

東京豊新ライオンズクラブ●赤尾嘉晃

**■シカゴ大会に期待**

シカゴ国際大会に参加を予定しているので、1月号の特集「創設者メルビン・ジョーンズの話」に続き、2月号の特集「シカゴ国際大会への誘い」を興味深く読ませて頂いた。ライオンズクラブ国際協会の100周年が更なるステップになるような、価値のある大会になると期待している。

2月号のクラブ・リポートには我が332・D地区の話題が二つ掲載されていた。桑折ライオンズクラブのリポートは12回を数える恒例のアクティビティの話題だが、非常に深い取材をしていて、新鮮に映った。地元の町長さんも全国に発信され、喜んでおられるという。

もう一つは私が所属する郡山開成ライオンズクラブのレガシー・プロジェクト。猪苗代湖と郡山市を結ぶ約50キロに及ぶ一本の水路、安積疏水をテーマに、開拓者たちの軌跡が日本遺産に認定されたことを記念したアクティビティだ。

一読して頂ければありがたいです。

福島県・郡山開成ライオンズクラブ●渡辺誠

## 読者プレゼント

**■八女和こまとけん玉、「ぐっポス」を読者5人に**

今月号「ふるさと探訪」（49〜53ページ）で紹介した福岡県八女市にある隈本木工所の八女和こまとけん玉、良い姿勢に導く「ぐっポス」をセットにして5人の読者にプレゼントします。ぐっポスは鉛筆を持たない手で軽く握ることで手を適切な位置に導き、握った手と腕が身体を支えるつっかい棒になることで、視線が上がり背筋が張って良い姿勢になる教習具です。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「八女和こま」（ぐっポスは左右の別があるので、左利きの場合は左手用希望とお書きください）と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は4月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　一般社団法人 日本ライオンズ・ライオン誌
＊オンライン応募は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=b.／第2問=c.／第3問=a.／第4問=c.／第5問=b.

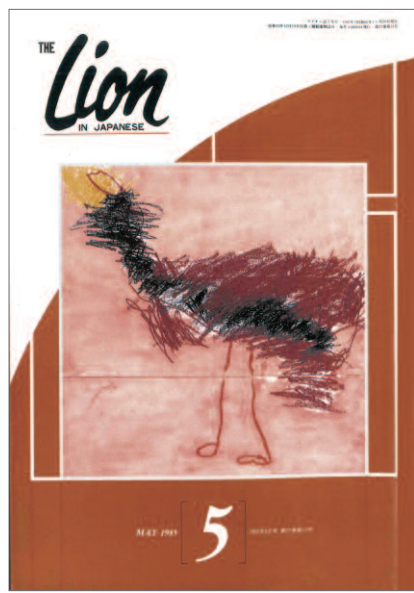
もう一度読みたい「あの記事」

●1985年5月号 特集・科学

# 「ライオンズと科学」

編集部

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

科学とライオンズの関連について考えてみた。「奉仕と親睦」を旗印とする団体だからといって、決して科学と無縁の存在ではあり得ない。資源小国の日本が、今後、低成長ながら安定して生き続けていくには、平和的な科学技術の習熟とその活用による世界への貢献以外に、道はなかろうかと思われるのである。

それにしても、年間7万件に達する日本ライオンズのアクティビティの中で、科学的なものは少ない。各クラブの活動報告書やクラブ会報を引っくり返して、探してみた。「教育奉仕」の中に、児童の科学工夫展を後援したとか、「21世紀の郷土」作文集の発行などがある。町を流れる川の水質調査を行う、樹木の種類を調べて名札を付けるなどは科学と言っても、より身近な「環境保全奉仕」の分類に入る。

たこづくり教室や、巣箱を備えてバード・ウォッチングなどは「レクリエーション奉仕」になる。

そうした中で、新潟県・越後西川ライオンズ(クラブ)の天体観測教室は、出色のものだった。知識のある会員の熱意もあって、5年間、子どもたちと多くの町民の夢をはるか天空に運んだ。また、334-D地区では史跡保護の有意義な試みが進んでいる。この他「公衆安全奉仕」として、北海道のあるクラブでは大学の工学部と協同で、壁に激突した車体とその中の人形の衝撃を調べるといったもの、「市民奉仕」の中で受刑者の職業訓練にワープロを贈る、などがあった。少し変わったアクティビティとして、東京都内のあるクラブが発明協会の先生を指導者として、会員のアイデアを持ち寄って、ヒット商品を開発し、事業資金獲得をもくろんだこともあった。自然消滅したのは実に惜しまれる。

アクティビティにもさまざまな変遷があった。金銭奉仕から労力奉仕へ、そして今、新たに能力奉仕、が言われているが、そうした意味で、科学的なアクティビティにもっと力を注いでもらいたいものである。例えば科学技術に関する講演も優れた科学的なアクティビティではないだろうか。先端技術は何も大企業のみの独占物ではない。科学、技術を高度なものとして敬遠しないで、どんどん取り入れて活用することを勧める。

かつて日本人は、バスに乗り遅れるなと、夢中になって駆け回ってきた。それがなぜ、今、とまどいを見せているのか。それは、日本が世界のトップ・ランナーになり、これまではやってきたバスに乗りさえすればよかったが、さて自分たちが先頭のバスを運転することになって、どこへ向かって動かすのか分からないで困っている状態なのだ。

さかのぼれば、私たちは三つの時代を過ごしてきた。それはハビングからドゥーイング、そしてビーイングへ。戦後の無から始まって取得の時代、高度成長期の行動の時代、続いてしばらく前から存在の時代に入った。

コンピューター中毒症を意味する言葉「コンチュウキ」が生まれたが、科学は生活を豊かにする反面、人を魅了する魔性が潜んでいることは、確かである。

青少年の健全育成は、ライオンズが取り組む大きな柱の一つである。今後、その中に科学する心を育て、創造力を豊かにするためのプログラムが考えられないものだろうか。

■本欄で紹介した記事を含むライオン誌アーカイブが、www.thelion-mag.jpでご覧頂けます

# ライオン誌例会のススメ
## ―次の例会ですぐ使える情報

## ライオンズ百科

### ■緊急援助を支えるLCIF

100人以上が避難を余儀なくされるような大きな自然災害が発生した際、ライオンズの緊急援助活動を資金面で支えるのがLCIF緊急援助金だ。緊急援助金は上限1万ドルで、災害発生から30日以内に地区ガバナーが申請すれば交付される。

今年度上半期（16年7月～12月）に、世界の各地区の申請を受けてLCIFが交付した緊急援助金は110件、96万5千ドル。災害の種類別に見ると、洪水が42件、熱帯低気圧による大雨・強風で被害をもたらすハリケーンと台風（各13件）、サイクロン（4件）が合わせて30件で、風水害が半数以上を占めた。交付を受けた国別で見ると、最も多かったのはアメリカでハリケーン、竜巻、森林火災の22件。次いでインドが洪水とサイクロンで16件、台湾が台風14件だった。日本への交付は2件で、東北地方太平洋側に初めて上陸した台風10号で深刻な被害を受けた331-B地区（北海道道東・道北）と332-B地区（岩手県）がそれぞれ交付を受けている。

また甚大な大規模災害に対して交付される大災害援助金は3件で、イタリアとインドネシアの大地震、アメリカ・ルイジアナ州の洪水の3件にそれぞれ10万ドルが交付された。

インドで発生した洪水の被災者に対する緊急援助活動

## この日・この月

4月22日は地球環境について考えるアースデー。1970年4月22日、アメリカの上院議員の呼び掛けで開かれた環境問題に関する討論集会で、この日を「アースデー」とすることを宣言。その運動は全世界へと広まり、日本でも1990年からアースデーに関する催しが始まった。東京の代々木公園では毎年この日に近い週末に「アースデイ東京」が開かれ、地球について考える幅広い企画が実施されている。2009年には国連が4月22日を「国際母なるアースデー」とすることを採択した。

ライオンズクラブ国際協会は4月に環境保護に取り組む世界奉仕ウィークを設けており、今年は4月17日～23日の1週間で地域社会で地球を守る活動に取り組むよう推奨している。

## クイズde例会

〈第1問〉国際協会の災害援助プログラムの名称は？

a. アラーム　b. アラート
c. エリート

〈第2問〉災害発生後の緊急支援に交付されるLCIF交付金は？

a. 災害準備交付金
b. 大災害援助金
c. 緊急援助金

〈第3問〉2017年11月に開かれるOSEALフォーラムの開催国は？

a. 台湾　b. 香港
c. 日本

〈第4問〉次のうち、OSEAL地域に属さない国は？

a. ミクロネシア　b. パラオ
c. インドネシア

〈第5問〉ライオンズクラブ100周年記念コインの表に描かれている絵柄は？

a. ライオンの家族
b. メルビン・ジョーンズの肖像
c. 国際本部ビル

★回答は54㌻下

## 5月号予告

特集 LCIF

LCIFはその交付金によって世界各地のライオンズによる人道奉仕を支えている。恵まれない人々の生活をより良くし、希望を育む交付金事業について、各国を訪問して視察してきた山田實紘LCIF理事長に寄稿して頂く。2015-16年度のLCIF年次報告も掲載。

Official publication of Lions Clubs International

**EXECUTIVE OFFICERS**
President Chancellor Robert E. “Bob” Corlew, Milton, Tennessee, United States; Immediate Past President Dr. Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; First Vice President Naresh Aggarwal, Delhi, India; Second Vice President Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland; Third Vice President Jung-Yul Choi, Busan City, Korea. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

**DIRECTORS**
**Second Year Directors**
Melvyn K. Bray, New Jersey, United States; Pierre H. Chatel, Montpellier, France; Eun-Seouk Chung, Gyeonggi-do, Korea; Gurcharan Singh Hora, Siliguri, India; Howard Hudson, California, United States; Sanjay Khetan, Birgani, Nepal; Robert M. Libin, New York, United States; Richard Liebno, Maryland, United States; Helmut Marhauer, Hildesheim, Germany; Bill Phillipi, Kansas, United States; Lewis Quinn, Alaska, United States; Yoshiyuki Sato, Oita, Japan; Gabriele Sabatosanti Scarpelli, Genova, Italy; Jerome Thompson, Alabama, United States; Ramiro Vela Villarreal, Nuevo León, Mexico; Roderick “Rod” Wright, New Brunswick, Canada; Katsuyuki Yasui, Hokkaido, Japan.

**First Year Directors**
Bruce Beck, Minnesota, United States; Tony Benbow, Vermont South, Australia; K. Dhanabalan, Erode, India; Luiz Geraldo Matheus Figueira, Brasília, Brazil; Markus Flaaming, Espoo, Finland; Elisabeth Haderer, Overeen, The Netherlands; Magnet Lin, Taipei, Taiwan; Sam H. Lindsey Jr., Texas, United States; N. Alan Lundgren, Arizona, United States; Joyce Middleton, Massachusetts, United States; Nicolin Carol Moore, Arima, Trinidad and Tobago; Yasuhisa Nakamura, Saitama, Japan; Aruna Abhay Oswal, Gujrat, India; Vijay Kumar Raju Vegesna, Visakhapatnam, India; Elien van Dille, Ronse, Belgium; Jennifer Ware, Michigan, United States; Jaepung Yoo, Cheongju, Korea.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

**ライオン誌日本語版委員会**
国際理事　安井 克之
国際理事　佐藤 宜之
国際理事　中村 泰久
委員長　石井 博之（334複合地区）
編集長　佐藤 義則（332複合地区）
委　員　久津間康允（330複合地区）
委　員　佐々木忠康（331複合地区）
委　員　渡邉 信也（333複合地区）
委　員　中村 房雄（335複合地区）
委　員　矢野 敏明（336複合地区）
委　員　小柴 登司（337複合地区）

一般社団法人日本ライオンズ
ライオン誌日本語版委員会
〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL.(03)6674-8777 FAX.(03)6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

# 糖尿病は万病の元

ライオン誌
日本語版委員
◉
渡邉信也
（新潟県・亀田）

山田實紘LCIF理事長によるセミナーで、世界の会員50万人に重要な奉仕分野を尋ねたアンケートの結果、最も多かったのは糖尿病であったと報告がありました。

日本における糖尿病の患者数は950万人と推計されています。糖尿病には1型糖尿病と2型糖尿病があり、1型はインスリンを分泌する膵臓のβ細胞が破壊されてインスリンの分泌が著しく低下する病気で乳幼児から学童期に発症することが多く、一生涯治療を続けなければなりません。一方、私たちが一般的に言う糖尿病は2型糖尿病で、遺伝的因子と過食、運動不足や肥満などの原因でインスリンの分泌と作用が低下し、高血糖が持続する疾患です。

糖尿病の3大合併症と言えば、「腎症」「網膜症」「神経障害」です。これは5年以上の長期にわたって高血糖が持続すると細小血管障害が出現するためです。腎症は人工透析、網膜症は失明、神経障害は足がしびれたり、痛くて眠れなかったり、足の切断に至ることもある恐ろしい病気です。日本における糖尿病患者の死因調査（2001～10年）で最も多かったのはがん（肺がん・肝臓がん・膵臓がん）で38・3％、2位は感染症（肺炎）17・0％、3位は血管障害（脳血管障害・虚血性心疾患・慢性腎不全）14・9％でした。平均死亡年齢は男性71・4歳、女性75・1歳で、一般の寿命より短くなります。

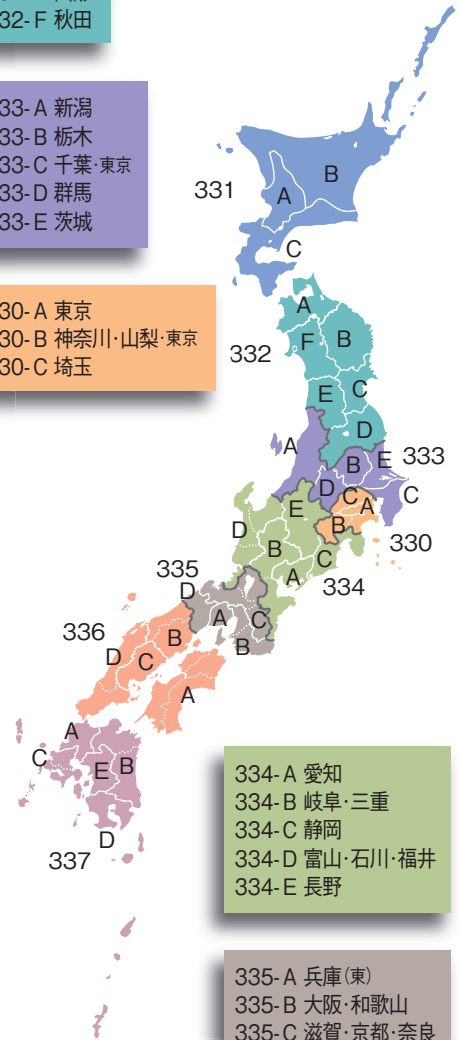
糖尿病の早期から血糖をコントロールすることにより、これらの恐ろしい合併症を予防出来ることが明らかになっています。腎症の予防には血圧の厳格なコントロールも重要です。また、治療による低血糖の反復は糖尿病の重症化を引き起こしますので、血糖値は高過ぎても低過ぎても危険です。現在、低血糖のリスクの低い薬剤が使用されています。

日本では糖尿病ないし糖尿病予備群と指摘されたにもかかわらず、年間50万人を超える人が治療を受けずにいたり、中断している現状です。家系に糖尿病の人がいる方や、肥満・運動不足の方は無症状でも健診を受けてください。

本誌6月号は「糖尿病の実態」の特集を予定しておりますので、ご一読をお願い致します。

# 日本ライオンズクラブ分布図

2017.2.28　eMMR ServannA報告による

| 地区 | クラブ数 | 会員数 | 増減 | 男女別会員数 男性 | 女性（割合） | 家族会員数 子会員 | 増減 | 男性 | 女性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 330-A | 201 | 6,482 | 79 | 4,691 | 1,791（27.6） | 1,851 | 5 | 607 | 1,244 |
| 330-B | 166 | 4,537 | 38 | 3,808 | 729（16.1） | 480 | −5 | 128 | 352 |
| 330-C | 85 | 2,377 | 26 | 1,933 | 444（18.7） | 372 | −6 | 118 | 254 |
| 330 計 | 452 | 13,396 | 143 | 10,432 | 2,964（22.1） | 2,703 | −6 | 853 | 1,850 |
| 331-A | 73 | 2,799 | 65 | 2,239 | 560（20.0） | 482 | 23 | 89 | 393 |
| 331-B | 85 | 2,752 | 10 | 2,208 | 544（19.8） | 482 | 1 | 66 | 416 |
| 331-C | 51 | 1,931 | 9 | 1,577 | 354（18.3） | 334 | 2 | 86 | 248 |
| 331 計 | 209 | 7,482 | 84 | 6,024 | 1,458（19.5） | 1,298 | 26 | 241 | 1,057 |
| 332-A | 63 | 2,190 | 67 | 1,688 | 502（22.9） | 400 | 22 | 88 | 312 |
| 332-B | 53 | 2,427 | 11 | 1,603 | 824（34.0） | 854 | 1 | 148 | 706 |
| 332-C | 67 | 1,927 | 38 | 1,360 | 567（29.4） | 542 | 17 | 112 | 430 |
| 332-D | 72 | 2,561 | 71 | 1,952 | 609（23.8） | 560 | 33 | 116 | 444 |
| 332-E | 56 | 2,086 | 52 | 1,626 | 460（22.1） | 387 | 2 | 59 | 328 |
| 332-F | 44 | 1,400 | 0 | 1,016 | 384（27.4） | 329 | 2 | 58 | 271 |
| 332 計 | 355 | 12,591 | 239 | 9,245 | 3,346（26.6） | 3,072 | 77 | 581 | 2,491 |
| 333-A | 73 | 3,277 | 49 | 2,560 | 717（21.9） | 682 | 40 | 173 | 509 |
| 333-B | 48 | 1,756 | 14 | 1,105 | 651（37.1） | 614 | 29 | 156 | 458 |
| 333-C | 134 | 3,566 | 27 | 2,701 | 865（24.3） | 556 | −27 | 158 | 398 |
| 333-D | 54 | 2,480 | 34 | 1,801 | 679（27.4） | 706 | −20 | 173 | 533 |
| 333-E | 82 | 4,899 | 78 | 3,175 | 1,724（35.2） | 1,951 | −34 | 527 | 1,424 |
| 333 計 | 391 | 15,978 | 202 | 11,342 | 4,636（29.0） | 4,509 | −12 | 1,187 | 3,322 |
| 334-A | 120 | 6,938 | 51 | 4,564 | 2,374（34.2） | 2,418 | −3 | 483 | 1,935 |
| 334-B | 79 | 4,794 | 24 | 3,263 | 1,531（31.9） | 1,700 | −51 | 349 | 1,351 |
| 334-C | 80 | 3,513 | 32 | 2,894 | 619（17.6） | 544 | −28 | 75 | 469 |
| 334-D | 98 | 5,993 | 188 | 3,975 | 2,018（33.7） | 2,161 | 92 | 400 | 1,761 |
| 334-E | 52 | 2,684 | −2 | 1,901 | 783（29.2） | 791 | −45 | 208 | 583 |
| 334 計 | 429 | 23,922 | 293 | 16,597 | 7,325（30.6） | 7,614 | −35 | 1,515 | 6,099 |
| 335-A | 81 | 2,165 | 24 | 1,699 | 466（21.5） | 229 | 7 | 35 | 194 |
| 335-B | 169 | 6,705 | 88 | 4,862 | 1,843（27.5） | 1,566 | 43 | 328 | 1,238 |
| 335-C | 115 | 4,116 | 67 | 3,438 | 678（16.5） | 412 | 1 | 93 | 319 |
| 335-D | 64 | 2,056 | 13 | 1,592 | 464（22.6） | 330 | −3 | 74 | 256 |
| 335 計 | 429 | 15,042 | 192 | 11,591 | 3,451（22.9） | 2,537 | 48 | 530 | 2,007 |
| 336-A | 147 | 6,262 | 157 | 4,748 | 1,514（24.2） | 1,122 | 21 | 216 | 906 |
| 336-B | 94 | 3,340 | −52 | 2,669 | 671（20.1） | 469 | −29 | 75 | 394 |
| 336-C | 96 | 3,534 | 92 | 2,952 | 582（16.5） | 419 | 71 | 75 | 344 |
| 336-D | 93 | 3,454 | 63 | 2,853 | 601（17.4） | 435 | 11 | 46 | 389 |
| 336 計 | 430 | 16,590 | 260 | 13,222 | 3,368（20.3） | 2,445 | 74 | 412 | 2,033 |
| 337-A | 116 | 5,567 | 80 | 3,993 | 1,574（28.3） | 1,260 | 21 | 270 | 990 |
| 337-B | 69 | 3,002 | 109 | 2,199 | 803（26.7） | 795 | 33 | 170 | 625 |
| 337-C | 80 | 4,204 | −29 | 2,790 | 1,414（33.6） | 1,460 | −73 | 422 | 1,038 |
| 337-D | 76 | 2,385 | 34 | 2,039 | 346（14.5） | 186 | −2 | 37 | 149 |
| 337-E | 58 | 1,866 | 99 | 1,494 | 372（19.9） | 277 | 55 | 78 | 199 |
| 337 計 | 399 | 17,024 | 293 | 12,515 | 4,509（26.5） | 3,978 | 34 | 977 | 3,001 |
| 総計 | 3,094 | 122,025 | 1,706 | 90,968 | 31,057（25.5） | 28,156 | 206 | 6,296 | 21,860 |

## 世界のライオンズ

2017.2.28　国際協会集計

国または領域………212　クラブ数 ………47,079

会員数 ……1,405,951　会員数増減……26,462

# ライオン誌日本語版出版物

## ライオンズ新書

**ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める** 第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判 224ページ

1部500円･送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

**ライオンズ新書02 LCIF早分かり** 第2版第1刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判 184ページ

1部400円･送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

## ライオンズスクール･シリーズ

**初級編･ライオンズクラブ入門** 第3版第6刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

A4判 64ページ

1部400円･送料実費

**上級編･リーダーシップを養う** 第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

A4判 64ページ

1部400円･送料実費

●大口注文割引（ライオンズスクール･シリーズ）：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

- 合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
- お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-6674-8781）でお願いします

## ライオン誌日本語版出版物　注文書

●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……… 部

●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……… 部

●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 ……… 部

●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 ……… 部

| 地区名 33 - | クラブ名 | お名前（クラブで注文の場合は不要） |
|---|---|---|
| ご住所 〒 - | | お電話番号 |

# 世界中の子どもたちの笑顔が見たい!

**300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA**
**Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735**
**E-mail: lcif@lionsclubs.org**
**http://www.lcif.org/JA/index.php**

ライオン誌4月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2017年(平成29年)3月20日発行　毎月1回20日発行　第59巻第10号
発行／一般社団法人日本ライオンズ ライオン誌日本語版委員会　〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　Tel 03-6674-8777
印刷／凸版印刷株式会社